

科目名 心理学	1年次 1単位 30時間	講義担当者名	
事前学習内容			
科目全体のねらい・授業目標 ・心理の基礎を理解し、臨床現場における患者および家族への関わり方について学ぶ。			
ディプロマ・ポリシー(卒業時の目標)との関連 ・患者および家族の多様な価値観を認識し、共感的態度を持った行動がとれる。 ・他者により良い人間関係を築くことができる。			
授業の流れ(全体のスケジュール回数、学習内容、方法、学習成果、使用テキスト、準備物品など)			
回	内 容	方 法	備 考
1	コミュニケーションスキル	講義	教科書、資料
2	人間性と社会化	講義	教科書、資料
3	ソーシャルスキル・トレーニング	講義	教科書、資料
4	社会的役割	講義	教科書、資料
5	看護ケアと人間観	講義	教科書、資料
6	非言語的コミュニケーションとアサーション	講義	教科書、資料
7	対人関係の考え方と技法	講義	教科書、資料
8	積極技法を使った実践	GW	視聴覚教材
9	積極技法を使った実践	GW	視聴覚教材
10	発達障害	講義	教科書、資料
11	発達障害	講義	教科書、資料
12	家族の人間関係と看護師の関わり	講義	教科書、資料
13	家族の人間関係と看護師の関わり	講義	教科書、資料
14	闘病 / 危機的状態下での関係性	講義	教科書、資料
15	ソーシャルサポートとチーム医療	講義	教科書、資料
	テスト	筆記試験	
受講上の注意		評価方法 筆記試験 100点	
使用するテキスト 看護学生のための心理学 医学書院			
参考文献			

科目名 統計学	1年次 1単位 15時間	講義担当者名	
事前学習内容			
科目全体のねらい・授業目標 ・根拠に基づく看護を導き出す手法について理解できる。			
ディプロマ・ポリシー(卒業時の目標)との関連 ・社会の動向を捉え、社会が看護師に求められている役割を考えることができる。 ・探求心を持って学習・研究に取り組む必要性について理解できる。			
授業の流れ(全体のスケジュール回数、学習内容、方法、学習成果、使用テキスト、準備物品など)			
回	内 容	方 法	備 考
1	医療・看護における統計学	講義	教科書、資料
2	保健統計の種類	講義	教科書、資料
3	保健統計に関する資料から見える社会的特徴や保健医療福祉の課題	講義	教科書、資料
4	統計データの種類およびまとめ方	講義	教科書、資料
5	統計データの活用とグラフ作成	演習	教科書、資料
6			
7	統計学を活用した看護研究の実際	講義	教科書、資料
8	テスト	筆記試験	
受講上の注意		評価方法 筆記試験	100点
使用するテキスト 系統看護学講座 基礎分野 統計学 医学書院			
参考文献			

科目名 生物学	1年次 1単位 15時間	講義担当者名	
事前学習内容			
科目全体のねらい・授業目標 ・生体の構造が細胞から組織、組織から器官という一連の体系的な機構から成り立っていることを学ぶ。			
ディプロマ・ポリシー(卒業時の目標)との関連 ・生命の尊さを理解し、人間理解を深めることができる。			
授業の流れ(全体のスケジュール回数、学習内容、方法、学習成果、使用テキスト、準備物品など)			
回	内 容	方 法	備 考
1	細胞とその構造	講義	教科書
2	生体維持のエネルギー	講義	教科書
3	細胞の増殖とからだの成り立ち	講義	教科書
	遺伝情報とその伝達・発現のしくみ	講義	教科書
	各器官系のはたらき	講義	教科書
4	胚葉からの組織・器官の形成と期間	講義	教科書
	細胞間の情報伝達の方法	講義	教科書
	テスト	筆記試験	
受講上の注意		評価方法 筆記試験	100点
使用するテキスト 系統看護学講座 基礎分野 生物学 医学書院			
参考文献			

科目名 看護情報学 I	1年次 1単位 30時間	講義担当者名	
事前学習内容			
科目全体のねらい・授業目標 ・情報のデジタル化や情報通信ネットワークの特性を理解し、情報化する社会医療情報の電子化に対応できる能力を養う。			
ディプロマ・ポリシー(卒業時の目標)との関連 ・自己研鑽に努め看護を探究する能力を養える。			
授業の流れ(全体のスケジュール回数、学習内容、方法、学習成果、使用テキスト、準備物品など)			
回	内 容	方 法	備 考
1	第1章 情報の定義と特徴 ・情報とは	講義	教科書、資料
2	・情報の特性	講義	教科書、資料
3	・情報の認知と意思決定	講義	教科書、資料
4	・情報の伝達とコミュニケーション	講義	教科書、資料
5	第2章 ・情報社会の成立と発展	講義	教科書、資料
6	・情報社会で求められること	講義	教科書、資料
7	第3章 ・医療における情報	講義	教科書、資料
8	・エビデンスに基づいた保健医療	講義	教科書、資料
9	・ヘルスプロモーションと情報	講義	教科書、資料
10	第4章・看護における情報 ・情報社会と看護	講義	教科書、資料
11	第6章 ・情報処理と倫理	講義	教科書、資料
12	第7章 患者の権利と情報 診療の情報の開示	講義	教科書、資料
13	第8章 個人情報の保護	講義	教科書、資料
14	・医療・看護における個人情報	講義	教科書、資料
15	まとめ	講義	教科書、資料
	テスト	筆記試験	
受講上の注意 ・授業の配布プリントを復習してから出席すること。		評価方法 筆記試験	100点
使用するテキスト 系統看護学講座 別巻 看護情報学 医学書院 配布資料			
参考文献			

科目名 看護情報学 II	1年次 1単位 30時間	講義担当者名	
事前学習内容			
科目全体のねらい・授業目標 ・情報のデジタル化や情報通信ネットワークの特性を理解し、情報化する社会医療情報の電子化に対応できる能力を養う。			
ディプロマ・ポリシー(卒業時の目標)との関連 ・自己研鑽に努め看護を探究する能力を養える。			
授業の流れ(全体のスケジュール回数、学習内容、方法、学習成果、使用テキスト、準備物品など)			
回	内 容	方 法	備 考
1	第5章医療における情報システム	講義	教科書、資料
2	医療における情報の記録	講義	教科書、資料
3	・病院情報システムと記録の仕方	講義	教科書、資料
4	・地域医療福祉のネットワーク	講義	教科書、資料
5	ネットワークと情報システム	講義	教科書、資料
6	第8章個人情報の保護	講義	教科書、資料
7	・情報の利用の仕方	講義	教科書、資料
8	第9章コンピューターリテラシー	講義	教科書、資料
9	セキュリティ	講義	教科書、資料
10	・インターネットに関する基礎知識と注意点	講義	教科書、資料
11	事例	演習	教科書、資料
12	事例	演習	教科書、資料
13	事例	演習	教科書、資料
14	事例	演習	教科書、資料
15	まとめ	講義	教科書、資料
	テスト	筆記試験	
受講上の注意 ・授業の配布プリントを復習してから出席すること。		評価方法 筆記試験	100点
使用するテキスト 系統看護学講座 別巻 看護情報学 医学書院 配布資料			
参考文献			

科目名 論理学	1年次 1単位 15時間	講義担当者名	
事前学習内容			
科目全体のねらい・授業目標 ・論理について学び、人間として生きるための規範や正しく考える基盤とする。さらに自分で思考や推理を検証し考える力を(論理的思考)養う。(1)論理的に思考することができる。(2)論理的思考に必要な接続表現が活用できる。(3)倫理的に書くための文章力を身につける。(4)思考の流れや過程が分かり、各自の意見力(自らの意見を伝えること)を身につける。			
ディプロマ・ポリシー(卒業時の目標)との関連 ・看護師として医療にたずさわる際、適切に言葉を使用し思考することができる。			
授業の流れ(全体のスケジュール回数、学習内容、方法、学習成果、使用テキスト、準備物品など)			
回	内 容	方 法	備 考
1	論理・論証とはなにか	講義	教科書、資料
2	知ることと考えることの違い/考えるとはなにか	講義	教科書、資料
3	接続表現	講義	教科書、資料
4	論理的に考える方法	講義	教科書、資料
5	論証を図で示す	講義	教科書、資料
6	論理的に書く	講義	教科書、資料
7	論理的に読む	講義	教科書、資料
8	テスト	筆記試験	
受講上の注意 ・授業の配布プリントを復習してから出席すること。			評価方法 筆記試験 100点
使用するテキスト 論理的に書く・読むスキル 医学書院 、 配布資料			
参考文献			

科目名	1年次	講義担当者名	
人間関係論	1単位 30時間		
事前学習内容 ・教科書・配布される資料等を予習し疑問点を明らかにして授業に臨むこと。			
科目全体のねらい・授業目標 ・看護師に必要な人間関係の基礎知識を習得し、コミュニケーション能力の向上を図る。(1)人間関係を理解するために必要となる基礎的な心理学知識を身につける。(2)自己の考え(価値観)・行動特性などを分析し理解できる。(3)他者の考え(価値観)や行動が理解できる。(4)コミュニケーションの様々な状態を体験し、人間関係における印象について理解できる。(5)より良い人間関係を身につける。			
ディプロマ・ポリシー(卒業時の目標)との関連 ・看護師-患者関係(対人関係)を理解し、看護においてどのような人間関係が重要なのか、その必要性が分かる。			
授業の流れ(全体のスケジュール回数、学習内容、方法、学習成果、使用テキスト、準備物品など)			
回	内 容	方 法	備 考
1	人間関係論基礎論	講義	教科書、資料
2	自己認知・対人認知	講義	教科書、資料
3	対人関係と役割	講義	教科書、資料
4	態度と対人行動	講義	教科書、資料
5	コミュニケーション	講義	教科書、資料
6	アサーティブコミュニケーション	講義	教科書、資料
7	コーチング	講義	教科書、資料
8	カウンセリングの技法	講義	教科書、資料
9	交流分析	講義	教科書、資料
10	保健医療チームの人間関係	講義	教科書、資料
11	患者・家族を支える人間関係	講義	教科書、資料
12	地域をつくる人間関係	講義	教科書、資料
13	リフレクション・プロセスレコード	講義	教科書、資料
14	傾聴の技法	講義	教科書、資料
15	傾聴の技法	講義	教科書、資料
	テスト	筆記試験	
受講上の注意 ・授業の配布プリントを復習してから出席すること。		評価方法 筆記試験 100点	
使用するテキスト 系統看護学講座 基礎分野 人間関係論 医学書院 、 配布資料			
参考文献			

科目名 臨床英語	1年次 1単位 30時間	講義担当者名	
事前学習内容 ・教科書・配布される資料等を予習し疑問点を明らかにして授業に臨むこと。			
科目全体のねらい・授業目標 ・看護に必要な臨床英語を学び、専門職として必要な語学の基礎を養う。(1)医療の現場において実際に使用される診察、検査、治療・看護上の医学専門英語の理解と修得。(2)人体各部の名称、症状、病名などの英語(略語)を理解できる。(3)診療録に記載された英語記述や医学専門英語が理解できる。(4)英語で患者と口頭によるコミュニケーションをとることができる。			
ディプロマ・ポリシー(卒業時の目標)との関連 ・多様化・高度化する専門職としての英語の運用能力の基本的素養を身につける。			
授業の流れ(全体のスケジュール回数、学習内容、方法、学習成果、使用テキスト、準備物品など)			
回	内 容	方 法	備 考
1	人体の構造と区分	講義	教科書、資料
2	医学用語	講義	教科書、資料
3	呼吸器系疾患	講義	教科書、資料
4	消化器系疾患	講義	教科書、資料
5	循環器系疾患	講義	教科書、資料
6	腎・泌尿器系疾患	講義	教科書、資料
7	血液系疾患	講義	教科書、資料
8	内分泌・代謝系疾患	講義	教科書、資料
9	筋・骨格・神経系・眼・皮膚	講義	教科書、資料
10	アレルギー・免疫系疾患	講義	教科書、資料
11	患者対応の基本(初診時の患者を理解する)	講義	教科書、資料
12	初診時の患者に対応する	講義	教科書、資料
13	症状の経過を理解する	講義	教科書、資料
14	診療科(受診科)の行き方を説明する	講義	教科書、資料
15	診療科(受診科)の行き方を説明する	講義	教科書、資料
	テスト	筆記試験	
受講上の注意 ・授業の授業内容や配布プリントを復習してから出席すること。		評価方法 筆記試験 100点	
使用するテキスト 臨床英語、配布資料			
参考文献			

科目名 総合医療論	1年次 1単位 15時間	講義担当者名	
事前学習内容			
科目全体のねらい・授業目標 現代の保健医療制度ならびに生命倫理、現代医療の課題について理解する。			
ディプロマ・ポリシー(卒業時の目標)との関連 専門職者としての役割と責任を自覚し、常に向上心を持って行動することができる。			
授業の流れ(全体のスケジュール回数、学習内容、方法、学習成果、使用テキスト、準備物品など)			
回	内 容	方 法	備 考
1	1)医療と看護の原点 病と癒し ・命について、健康のとらえ方、病体験、	講義	教科書・資料
2	2)医療の歩みと医療観の変遷 ・現代医療の起源、医療観の移りかわり	講義・DVD視聴	教科書・DVD
3	3)私達の生活と医療 ・救急医療、医療費と医療保険のしくみ	講義・DVD視聴	教科書・DVD
4	4)科学技術の進歩と現代医療の最前線 ・現代医学と先端医療技術の最前線	講義	教科書
5	5)現代医療の新たな課題 ・先端医療技術がもたらした倫理上の葛藤、 ・医療と法制度	講義	教科書
6	6)医療を見つめ直す新しい視点 ・患者の安全、情報化社会と医療	講義	教科書
7	7)保健・医療・介護・福祉の近未来像 ・近未来の保・医・介・福を担う専門職像 ・地球環境問題と私たちの健康	講義	教科書
	テスト	筆記試験	
受講上の注意 授業内容にあたる教科書のページを読んでから授業に臨むこと。		評価方法 筆記試験	100点
使用するテキスト 系統看護学講座 別巻 総合医療論 医学書院			
参考文献			

科目名 公衆衛生学 I	1年次 1単位 30時間	講義担当者名	
事前学習内容 教科書の講義の内容の部分を事前に熟読する。			
科目全体のねらい・授業目標 ・公衆衛生「みんなの健康」が住民のどのような健康段階や健康障害と関連するか。また生活や環境とどのように関係するのかを理解する。 ・集団を対象とした公衆衛生活動を理解するための統計学的手法や学校、職場で展開される活動を理解する。 ・現代の感染症対策、健康危機管理、災害保健について理解する。			
ディプロマ・ポリシー(卒業時の目標)との関連 ・人々の健康と生活を自然・文化社会的な環境との相互作用の観点から理解する能力を養う。 ・環境が健康に及ぼす影響と予防策について理解する			
授業の流れ(全体のスケジュール回数、学習内容、方法、学習成果、使用テキスト、準備物品など)			
回	内 容	方 法	備 考
1	みんなの健康とは(ひとりからみんなへの看護)	講義	
2	みんなの健康をみんなで守るとは	講義	
3	公衆衛生とは何か	講義	
4	公衆衛生の歴史(日本と世界)	講義	
5	戦後の展開とヘルスプロモーション	講義	
6	公衆衛生の活動対象(社会集団とは)	講義	
7	自分の住む地域の健康指標を調べよう	演習、調査	
8	公衆衛生の仕組み(政策面から)	講義	
9	公衆衛生の仕組み(専門職として)	演習・講義	
10	疫学・保健統計(公衆衛生の面から)とは	演習・講義	
11	疫学(健康指標から)	演習・講義	
12	公衆衛生の場での疫学一原因分析	演習・講義	
13	公衆衛生の場での疫学一対策、エビデンス	講義	
14	環境と健康一地球規模	講義	
15	環境と健康一身の回りの環境	講義	
	テスト	筆記試験	
受講上の注意			評価方法 筆記試験 100点
使用するテキスト 系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度 公衆衛生 医学書院			
参考文献 国民衛生の動向 2023~2024			

科目名 公衆衛生学Ⅱ	1年次 1単位 30時間	講義担当者名	
事前学習内容 教科書の講義内容を事前に熟読する。			
科目全体のねらい・授業目標 ・公衆衛生「みんなの健康」が住民のどのような健康段階や健康障害と関連するか。また生活や環境とはどのように関係するかを理解する。 ・集団を対象とした公衆衛生活動を理解するための統計学的手法や学校、職場において展開されている活動について理解する。 ・現代の感染症対策、健康危機管理、災害保健について理解する。			
ディプロマ・ポリシー(卒業時の目標)との関連 ・人々の健康と生活を自然・文化社会的な環境との相互作用の観点から理解する能力を養う。 ・環境が健康に及ぼす影響と予防策について理解する			
授業の流れ(全体のスケジュール回数、学習内容、方法、学習成果、使用テキスト、準備物品など)			
回	内 容	方 法	備 考
1	感染症と予防対策	演習・講義	
2	公衆衛生上の重要な感染症と対策	演習・講義	
3	公衆衛生の実践－公衆衛生看護とは	講義	
4	公衆衛生の実践－母子保健、成人保健、生活習慣病対策	演習・講義	
5	公衆衛生の実践－がん対策、健康教育、高齢者保健	演習・講義	
6	公衆衛生の実践－精神保健、歯科保健	演習・講義	
7	公衆衛生の実践－障がい者保健、難病保健、共生社会	演習・講義	
8	学校と健康－学校における健康とは	講義	
9	学校と健康－学校保健の展開	講義	
10	職場と健康－職場における健康	講義	
11	職場と健康－産業保健活動の展開	講義	
12	健康危機管理について	講義	
13	災害保健の保健活動	講義	
14	国際保健について	講義	
15	疫学の演習	演習・講義	
	テスト	筆記試験	
受講上の注意		評価方法 筆記試験 100点	
使用するテキスト 系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度 公衆衛生 医学書院			
参考文献 国民衛生の動向 2022～2023			

科目名 社会福祉	2年次 1単位 15時間	講義担当者名	
事前学習内容 教科書の講義の内容の部分を事前に熟読する。			
科目全体のねらい ・人々の健康と生活を自然・文化社会的な環境との相互作用の観点から理解する能力を養う。 ・社会保障・社会福祉の制度を学び情報提供の必要性を理解する。 ・多様な価値観を持つ人々のその人らしい生活を支えるため社会保障・社会福祉を学び、専門職業人としての役割を理解する。			
ディプロマ・ポリシー(卒業時の目標)との関連 人々の健康と生活を自然・文化社会的な環境との相互作用の観点から理解する能力を養う。			
授業の流れ(全体のスケジュール回数、学習内容、方法、学習成果、使用テキスト、準備物品など)			
回	内 容	方 法	備 考
1	社会保障制度とは、社会保障の体系について理解する。	講義	
2	4つの公助と各制度の関係について理解する。	講義	
3	現代社会の変化と社会保障・社会福祉の動向について理解する。	演習・講義	演習後提出物あり
4	社会福祉の分野とサービスについて理解する。	演習・講義	演習後提出物あり
5	社会福祉実践と医療・看護の概要について理解する。	講義	
6	社会福祉実践と医療・看護の実際について理解する。	講義	
7	社会保障制度の中の看護について理解する。	講義	
	テスト	筆記試験	
受講上の注意		評価方法 筆記試験 100点	
使用するテキスト 系統看護学講座 健康支援と社会保障制度 社会保障・社会福祉 医学書院			
参考文献 国民の福祉の動向			

科目名 関係法規	2年次 1単位 15時間	講義担当者名	
事前学習内容 教科書の講義の内容の部分を事前に熟読する。			
科目全体のねらい・授業目標 ・人々の健康と生活を自然・文化社会的な環境との相互作用の観点から理解する能力を養う。 ・人々の多様な価値観を認識し、専門職業人として共感的態度及び倫理観を持ち法令を遵守して行動できる能力を養う。			
ディプロマ・ポリシー(卒業時の目標)との関連 ・人々の健康と生活を自然・文化社会的な環境との相互作用の観点から理解する能力を養う ・人々の多様な価値観を認識し、専門職業人としての共感的態度及び倫理観を持ち法令を遵守して行動できる能力を養う。			
授業の流れ(全体のスケジュール回数、学習内容、方法、学習成果、使用テキスト、準備物品など)			
回	内 容	方 法	備 考
1	保健医療福祉と法の関わりかた	講義	
2	医療提供の理念と医療安全	講義	
3	看護をめぐる法律一人に関する法律	講義	
4	保健師助産師看護師法について	講義	
5	物、場所、支えるシステム、	講義	
6	政策に関わる基本法等の関連法令	講義	
7	看護の法的責任とは	講義	
8	テスト	筆記試験	
受講上の注意			評価方法 筆記試験 100点
使用するテキスト 系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度 関係法規 医学書院			
参考文献 平林勝政、小西知世ほか著 看護をめぐる法と制度 メディカ出版			

科目名 解剖生理学総論	1年次  1単位  15時間	講義担当者名	
事前学習内容  人体の形態や機能を理解するために授業前日までに、教科書を一読することが望ましい。			
科目全体のねらい・授業目標 ・人体を系統立てて理解できる。 ・人体の構造・機能と疾病を関連付けて理解できる。 ・身体の機能が障害される要因や病理的变化が理解できる。 ・疾患の病態とその治療法が理解できる。			
ディプロマ・ポリシー(卒業時の目標)との関連 ・人体の構造や機能を理解することができる。 ・臨床判断を行うための基礎がわかる。			
授業の流れ(全体のスケジュール回数、学習内容、方法、学習成果、使用テキスト、準備物品など)			
回	内 容	方 法	備 考
1	人体の基本構造 人体の階層構造 ②各器官系の構造臓器と主な役割 運動器系 ①身体部位の名称 ②骨と筋肉の名称 ①	講義	資料
2	神経系・内分泌系総論 ①神経系の区分と主なはたらき ②ホルモンの定義 ③主な内分泌器官	講義	資料
3	循環器系 ①心臓の構造 ②体循環と肺循環 ③血管の分類 ④主な血管の名称 ⑤リンパ循環	講義	資料
4	呼吸器系 ①呼吸器系の構成と構造 ②換気のしくみ	講義	資料
5	消化器系 ①消化管の構造 ②胆管膵の構造と主なはたらき	講義	資料
6	泌尿器系 ①腎臓の構造 ②尿の生成 ③ 排尿調整	講義	資料
7	内分泌系各論 ①視床下部・下垂体 ②副腎 ③甲状腺のはたらき	講義	資料
8	テスト	筆記試験	
受講上の注意 解剖学用語は複雑で多岐にわたる。授業に集中して臨むと共に復習が必須。			評価方法 筆記試験 100点
使用するテキスト 人体の構造と機能(マリープ)第2版 医学書院			
参考文献 系統看護学講座 専門基礎 解剖生理学 医学書院			

科目名	2年次	講義担当者名	
解剖生理と疾病論 I	1単位 30時間		
事前学習内容 人体の形態や機能を理解するために授業前日までに、教科書を一読することが望ましい。			
科目全体のねらい・授業目標 ・人体を系統立てて理解できる。 ・人体の構造・機能と疾病を関連付けて理解できる。 ・身体の機能が障害される要因や病理的变化が理解できる。 ・疾患の病態とその治療法が理解できる。			
ディプロマ・ポリシー(卒業時の目標)との関連 ・人体の構造や機能を理解することができる。 ・臨床判断を行うための基礎がわかる。			
授業の流れ(全体のスケジュール回数、学習内容、方法、学習成果、使用テキスト、準備物品など)			
回	内 容	方 法	備 考
1	呼吸器 循環器系の構造と機能	講義	資料
2	呼吸器 呼吸の生理	講義	資料
3	呼吸器 症状と病態生理(咳嗽・喀痰)	講義	資料
4	呼吸器 症状と病態生理(胸痛・呼吸困難)	講義	資料
5	呼吸器 検査と治療・処置(検査)	講義	資料
6	呼吸器 検査と治療・処置(治療・処置)	講義	資料
7	呼吸器 呼吸器感染症(肺炎・気管支炎・結核)	講義	資料
8	循環器 循環器系の構造と機能	講義	資料
9	循環器	講義	資料
10	循環器	講義	資料
11	循環器	講義	資料
12	循環器	講義	資料
13	循環器	講義	資料
14	循環器	講義	資料
15	テスト	筆記試験	
受講上の注意 解剖学用語は複雑で多岐にわたる。授業に集中して臨むと共に復習が必須。		評価方法 筆記試験	100点
使用するテキスト 系統看護学講座 専門分野 循環器 呼吸器 医学書院			
参考文献 系統看護学講座 専門基礎 解剖生理学 医学書院			

科目名 解剖生理と疾病論Ⅱ	2年次 1単位 30時間	講義担 当者名	
事前学習内容 人体の形態や機能を理解するために授業前日までに、教科書を一読することが望ましい。			
科目全体のねらい・授業目標 ・人体を系統立てて理解できる。 ・人体の構造・機能と疾病を関連付けて理解できる。 ・身体の機能が障害される要因や病理的变化が理解できる。 ・疾患の病態とその治療法が理解できる。			
ディプロマ・ポリシー(卒業時の目標)との関連 ・人体の構造や機能を理解することができる。 ・臨床判断を行うための基礎がわかる。			
授業の流れ(全体のスケジュール回数、学習内容、方法、学習成果、使用テキスト、準備物品など)			
回	内 容	方 法	備 考
1	消化器 消化器の構造と機能	講義	資料
2	消化器 症状とその病態生理 (下痢・便秘・嘔下困難)	講義	資料
3	消化器 症状とその病態生理 (嘔吐・腹痛・腹部膨満)	講義	資料
4	消化器 症状とその病態生理 (食欲不振・腹水・黄疸)	講義	資料
5	消化器 検査と治療(検査)	講義	資料
6	消化器 検査と治療(治療)	講義	資料
7	消化器 食道疾患 (食道がん・胃食道逆流症)	講義	資料
8	糖尿病 症状とその病態生理	講義	資料
9	糖尿病 症状とその病態生理	講義	資料
10	糖尿病 検査と治療	講義	資料
11	糖尿病 検査と治療	講義	資料
12	内分泌 症状とその病態生理	講義	資料
13	内分泌 検査と治療	講義	資料
14	内分泌 検査と治療	講義	資料
15	テスト	筆記試験	資料
受講上の注意 解剖学用語は複雑で多岐にわたる。授業に集中して臨むと共に復習が必須。			評価方法 筆記試験 100 点
使用するテキスト 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 消化器・内分泌 医学書院			
参考文献 系統看護学講座 専門基礎 解剖生理学 医学書院			

科目名 解剖生理と疾病論Ⅲ	2年次 1単位 30時間	講義担当者名	
事前学習内容 人体の形態や機能を理解するために授業前日までに、教科書を一読することが望ましい。			
科目全体のねらい・授業目標 ・人体を系統立てて理解できる。 ・人体の構造・機能と疾病を関連付けて理解できる。 ・身体の機能が障害される要因や病理的变化が理解できる。 ・疾患の病態とその治療法が理解できる。			
ディプロマ・ポリシー(卒業時の目標)との関連 ・人体の構造や機能を理解することができる。 ・臨床判断を行うための基礎がわかる。			
授業の流れ(全体のスケジュール回数、学習内容、方法、学習成果、使用テキスト、準備物品など)			
回	内 容	方 法	備 考
1	運動器 運動器の構造と機能	講義	資料
2	運動器 症状とその病態生理(疼痛・形態の異常)	講義	資料
3	運動器 症状とその病態生理(関節の異常・神経障害)	講義	資料
4	運動器 診断・検査と治療・処置 (検査)	講義	資料
5	運動器 診断・検査と治療・処置(治療・処置)	講義	資料
6	運動器 外傷性の運動器疾患	講義	資料
7	運動器 外傷性の運動器疾患	講義	資料
8	脳神経 運動器の構造と機能	講義	資料
9	脳神経 症状とその病態生理(疼痛・形態の異常)	講義	資料
10	脳神経 症状とその病態生理(関節の異常・神経障害)	講義	資料
11	脳神経 診断・検査と治療・処置 (検査)	講義	資料
12	脳神経 診断・検査と治療・処置(治療・処置)	講義	資料
13	脳神経 外傷性の運動器疾患	講義	資料
14	脳神経 外傷性の運動器疾患	講義	資料
15	テスト	筆記試験	
受講上の注意 学用語は複雑で多岐にわたる。授業に集中して臨むと共に復習が必須。		解剖	評価方法 筆記試験 100点
使用するテキスト 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 運動器・脳神経 医学書院			
参考文献 系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 医学書院			

科目名 解剖生理と疾病論IV	2年次 1単位 30時間	講義担当者名	
事前学習内容 授業の前日までに教科書の該当するページを読んでおくことが望ましい。			
科目全体のねらい・授業目標 ・人体を系統立てて理解できる。 ・人体の構造・機能と疾病を関連付けて理解できる。 ・身体の機能が障害される要因や病理的变化が理解できる。 ・疾患の病態とその治療法が理解できる。			
ディプロマ・ポリシー(卒業時の目標)との関連 ・人体の構造や機能を理解することができる。 ・臨床判断を行うための基礎がわかる。			
授業の流れ(全体のスケジュール回数、学習内容、方法、学習成果、使用テキスト、準備物品など)			
回	内 容	方 法	備 考
1	【腎・泌尿器】構造と機能	講義	教科書
2	【腎・泌尿器】症状と病態生理	講義	教科書
3	【腎・泌尿器】症状と検査①	講義	教科書
4	【腎・泌尿器】症状と検査②	講義	教科書
5	【腎・泌尿器】泌尿器疾患	講義	教科書
6	【腎・泌尿器】腎疾患	講義	教科書
7	【腎・泌尿器】腎疾患	講義	教科書
8	【女性生殖器】症状と病態生理	講義	教科書
9	【女性生殖器】診察と検査	講義	教科書
10	【女性生殖器】疾患の理解① 性分化疾患、膣の疾患	講義	教科書
11	【女性生殖器】疾患の理解② 子宮疾患	講義	教科書
12	【女性生殖器】疾患の理解③ 卵管の疾患、卵巣疾患	講義	教科書
13	【女性生殖器】疾患の理解④ 性感染症	講義	教科書
14	【女性生殖器】疾患の理解⑤ 月経異常、不妊症	講義	教科書
15	テスト	筆記試験	
受講上の注意 予習・復習として1時間程度の自己学習を行うことが望ましい。		評価方法 筆記試験	100点
使用するテキスト 系統看護学講座 専門分野 成人看護学(8)腎・泌尿器 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学(9)女性生殖器 医学書院			
参考文献 人体の構造と機能 医学書院			

科目名 解剖生理と疾病論 V	2年次 1単位 30時間	講義担当者名	
事前学習内容 授業の前日までに教科書の該当するページを読んでおくことが望ましい。			
科目全体のねらい・授業目標 ・人体を系統立てて理解できる。 ・人体の構造・機能と疾病を関連付けて理解できる。 ・身体の機能が障害される要因や病理的変化が理解できる。 ・疾患の病態とその治療法が理解できる。			
ディプロマ・ポリシー(卒業時の目標)との関連 ・人体の構造や機能を理解することができる。 ・臨床判断を行うための基礎がわかる。			
授業の流れ(全体のスケジュール回数、学習内容、方法、学習成果、使用テキスト、準備物品など)			
回	内 容	方 法	備 考
1	【皮膚】構造と機能	講義	教科書
2	【皮膚】症状と病態生理	講義	教科書
3	【皮膚】検査と治療処置	講義	教科書
4	【皮膚】疾患の理解	講義	教科書
5	【皮膚】疾患の理解	講義	教科書
6	【皮膚】疾患の理解	講義	教科書
7	【皮膚】疾患の理解	講義	教科書
8	【血液・免疫】血液の生理と造血の仕組み	講義	教科書
9	【血液・免疫】症状と病態生理	講義	教科書
10	【血液・免疫】検査と治療処置	講義	教科書
11	【血液・免疫】疾患の理解① 造血器悪性腫瘍	講義	教科書
12	【血液・免疫】疾患の理解②	講義	教科書
13	【血液・免疫】免疫の仕組みとアレルギー	講義	教科書
14	【血液・免疫】疾患の理解③ 膠原病	講義	教科書
15	テスト	筆記試験	
受講上の注意 予習・復習として1時間程度の自己学習を行うことが望ましい。			評価方法 筆記試験 100点
使用するテキスト 系統看護学講座 専門分野 成人看護学(2)皮膚 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学(4)血液・造血機能 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学(11)アレルギー・膠原病・感染症 医学書院			
参考文献 人体の構造と機能 医学書院			

科目名 解剖生理と疾病論VI	2年次 1単位 30時間	講義担当者名	
事前学習内容 授業の前日までに教科書の該当するページを読んでおくことが望ましい。			
科目全体のねらい・授業目標 ・人体を系統立てて理解できる。 ・人体の構造・機能と疾病を関連付けて理解できる。 ・身体の機能が障害される要因や病理的变化が理解できる。 ・疾患の病態とその治療法が理解できる。			
ディプロマ・ポリシー(卒業時の目標)との関連 ・人体の構造や機能を理解することができる。 ・臨床判断を行うための基礎がわかる。			
授業の流れ(全体のスケジュール回数、学習内容、方法、学習成果、使用テキスト、準備物品など)			
回	内 容	方 法	備 考
1	【耳鼻咽喉】鼻・副鼻腔の構造と機能、症状と病態生理①	講義	教科書
2	【耳鼻咽喉】鼻・副鼻腔の構造と機能、症状と病態生理②	講義	教科書
3	【耳鼻咽喉】検査と治療処置、鼻・副鼻腔疾患①	講義	教科書
4	【耳鼻咽喉】検査と治療処置、鼻・副鼻腔疾患②	講義	教科書
5	【耳鼻咽喉】耳・咽頭・頸部の構造と機能、症状と病態生理①	講義	教科書
6	【耳鼻咽喉】耳・咽頭・頸部の構造と機能、症状と病態生理②	講義	教科書
7	【耳鼻咽喉】検査と治療処置、耳・咽頭・頸部の疾患①	講義	教科書
8	【眼】構造と機能、症状と病態生理①	講義	教科書
9	【眼】構造と機能、症状と病態生理②	講義	教科書
10	【眼】構造と機能、症状と病態生理③	講義	教科書
11	【眼】検査と治療処置①	講義	教科書
12	【眼】検査と治療処置②	講義	教科書
13	【眼】機能障害、網膜・硝子体・角膜・眼瞼の疾患①	講義	教科書
14	【眼】機能障害、網膜・硝子体・角膜・眼瞼の疾患②	講義	教科書
15	テスト	筆記試験	
受講上の注意 予習・復習として2時間程度の自己学習を行うことが望ましい。		評価方法 筆記試験 100点	
使用するテキスト 系統看護学講座 専門分野 成人看護学(4)耳鼻咽喉 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学(13)眼 医学書院			
参考文献 人体の構造と機能 医学書院			

科目名 特殊治療論	2年生 1単位 15時間	講義担当者名	
事前学習内容 授業の前日までに教科書の該当するページを読んでおくことが望ましい。			
科目全体のねらい・授業目標 ・放射線療法と検査の特徴が理解できる。 ・放射線療法の作用機序と副作用および放射線の管理について理解できる。 ・手術療法における麻酔の基礎的知識とその管理および治療について理解できる。			
ディプロマ・ポリシー(卒業時の目標)との関連 ・生涯各期の成長、発達段階と疾病予防や治療に関する因子についてわかる。			
授業の流れ(全体のスケジュール回数、学習内容、方法、学習成果、使用テキスト、準備物品など)			
回	内 容	方 法	備 考
1	【放射線】総論、X線撮影、IVR	講義	
2	【放射線】MRI、核医学検査	講義	
3	【放射線】放射線防護、放射線治療総論	講義	
4	【放射線】放射線治療各論	講義	
5	【麻酔】麻酔とは、モニタリングについて	講義	
6	【麻酔】全身麻酔、脊椎麻酔、硬膜外麻酔	講義	
7	【麻酔】呼吸、輸血	講義	
8	テスト	筆記試験	
受講上の注意 予習・復習として2時間程度の自己学習を行うことが望ましい。			評価方法 筆記試験 100点
使用するテキスト 系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院			
参考文献			

科目名 臨床栄養学	2年次 1単位 30時間	講義担当者名	
事前学習内容			
科目全体のねらい・授業目標 生命の維持、成長及び組織の正常な機能の維持、エネルギー産生のために必要な栄養素とその適正量、合理的な摂取方法を学び、健康の回復に必要な食事の摂取の仕方を理解する。			
ディプロマ・ポリシー(卒業時の目標)との関連 看護実践に必要な基礎的知識、技術を習得することができる。			
授業の流れ(全体のスケジュール回数、学習内容、方法、学習成果、使用テキスト、準備物品など)			
回	内 容	方 法	備 考
1	1)臨床栄養学の基礎知識:①栄養学の意義と看護	講義	教科書
2	②栄養とは、③栄養アセスメント	講義	教科書
3	2)食品成分と食事摂取基準 ①食品成分とエネルギー	講義	教科書・資料
4	②日本人の食事摂取基準	講義	教科書
5	3)日常生活と栄養:①食文化、②運動と栄養	講義	教科書
6	③人生各期における健康生活と栄養	講義	教科書・資料
7	4)療養生活と栄養:①回復を促す食事と栄養管理	講義	教科書
8	②栄養成分別のコントロール食	講義	教科書・資料
9	③嚥下障害のある人のための食事	講義・DVD視聴	教科書・DVD
10	④経口摂取できない患者の栄養管理	講義・DVD視聴	教科書・DVD
11	5)疾患別の栄養食事療法:①消化器系疾患	講義	教科書
12	②内分泌・代謝疾患、③循環器系疾患	講義	教科書
13	④腎疾患	講義	教科書
14	6)栄養食事指導の実際	講義・グループワーク	教科書・資料
	①健康増進のための栄養食事指導		
	②食習慣改善のための栄養食事指導		
15	まとめ:チームアプローチと看護師の役割	講義	
	テスト	筆記試験	
受講上の注意 教科書や配布される資料について予習し、疑問点を明らかにして授業に臨むこと。		評価方法 筆記試験100点	
使用するテキスト 臨床栄養学 疾病の成り立ちと回復の促進④ (メディカ出版)			
参考文献 五訂食品成分表(女子栄養大学出版)			

科目名 臨床薬理学	1年次 1単位 30時間	講義担当者名	
事前学習内容			
科目全体のねらい・授業目標 薬物の特徴、作用機序、人体への影響及び薬物の取扱いや管理について理解し、 疾病やその予防、治療との関係を理解する。			
ディプロマ・ポリシー(卒業時の目標)との関連 専門職者としての役割と責任を自覚し、常に向上心を持って行動することができる。			
授業の流れ(全体のスケジュール回数、学習内容、方法、学習成果、使用テキスト、準備物品など)			
回	内 容	方 法	備 考
1	総論:1)薬理学を学ぶにあたって ①薬物とは何か ②薬理作用、③薬効に影響を及ぼす要因、 ④薬物の有害性	講義	教科書・資料
2	⑤薬物療法における看護師の役割 ・誤薬防止、治療効果の確認、有害作用 有害作用の早期発見、服薬指導	講義	教科書・資料
3	2)薬理学の基礎知識 ①薬物が作用するしくみ、 ②薬物の投与経路、③吸収・分布・代謝・排泄	講義	教科書・資料
4	④薬物と法律	講義	教科書・資料
5	各論:①抗感染症薬、②抗がん薬、	講義	教科書・資料
6	③免疫治療薬、④抗アレルギー薬・抗炎症薬	講義	教科書・資料
7	⑤抹消での神経活動に作用する薬物	講義	教科書・資料
8	⑥中枢神経系に作用する薬物	講義	教科書・資料
9	⑦循環器系に作用する薬物、	講義	教科書・資料
10	⑧呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物	講義	教科書・資料
11	⑨物質代謝に作用する薬物	講義	教科書・資料
12	⑩皮膚科用・眼科用薬、⑪救急に使用される薬物	講義	教科書・資料
13	⑫漢方薬、⑬消毒薬、	講義	教科書・資料
14	⑭輸液製剤・輸血剤	講義	教科書・資料
15	看護業務に必要な薬物の知識 ・薬物に関する単位、処方せん、添付文書	講義	教科書
	テスト		
受講上の注意 授業内容にあたる教科書のページを読んでから授業に臨むこと。		評価方法 筆記試験 100点	
使用するテキスト 系統看護学講座 別巻 臨床薬理学 医学書院			
参考文献			

科目名 臨床検査	1年次 1単位 30時間	講義担当者名	
事前学習内容			
科目全体のねらい・授業目標 チーム医療に必要な「臨床検査」の基礎知識、異常値の仕組みと疾患との関連を理解し、治療との関係、看護実践に活かす。			
ディプロマ・ポリシー(卒業時の目標)との関連 専門職者としての役割と責任を自覚し、常に向上心を持って行動することができる。			
授業の流れ(全体のスケジュール回数、学習内容、方法、学習成果、使用テキスト、準備物品など)			
回	内 容	方 法	備 考
1	1)生体の分子化学	講義	教科書・資料
	・代謝の基礎、酵素、ホメオスタシス、	講義	教科書
	・核酸、ヌクレオチド、遺伝、酸塩基平衡	講義	教科書
2	2)臨床現場に必要な検査に関する基礎知識	講義	教科書・資料
3	①検査前の注意(インフォームド コンセント、本人確認)	講義	教科書
4	②診療で行われる検体採取と検査の実施	講義	教科書
5	・各検体の採取方法と保存	講義	教科書
6	③検査結果の解析に必要な評価指標(基準値)	講義	教科書
7	④臨床検査の進め方	講義	教科書
8	3)臨床現場で活用する検査の意味とデータの読み方	講義	教科書・資料
9	・検査項目の全体像、各種検体検査	講義	教科書
10	・生理検査:心電図、肺機能検査、その他の検査	講義	教科書
11	・画像検査:CT検査、MRI検査、超音波検査、	講義・DVD視聴	講義・DVD視聴
12	X線検査、心臓カテーテル検査、内視鏡検査	講義	教科書
13	4)事例で学ぶ検査データから病態を把握する	講義	教科書
14	各種検査の代表的な基準値	講義	教科書
15	・心電図測定、毛細管血の採取、血糖測定	講義・演習	教科書
	テスト	筆記試験	
受講上の注意 授業の予習・復習として、2時間程度の自主学習が望まれる。		評価方法 筆記試験	100点
使用するテキスト 系統別看護学講座 別巻 臨床検査 医学書院			
参考文献 看護学テキスト 生化学 南光堂			

科目名 基礎看護学概論	1年次 1単位 30時間	講義担当者名	
事前学習内容 人間・環境・健康・看護とは何か、振り返り整理しておく			
科目全体のねらい・授業目標 ・看護について理解できる ・看護の対象の理解ができる ・対象を取り巻く環境を理解できる			
ディプロマ・ポリシー(卒業時の目標)との関連 ・生命の尊重・人間性の尊重について理解を深めることができる ・看護及び看護師の社会的な役割について理解できる			
授業の流れ(全体のスケジュール回数、学習内容、方法、学習成果、使用テキスト、準備物品など)			
回	内 容	方 法	備 考
1	看護を学ぶ意義を理解できる	講義	教科書1
2	看護理論を理解できる	講義	教科書1
3	看護場面の想像・読解力の向上ができる	レスポンスシート	教科書1
4	看護の対象を理解できる	講義	教科書2
5	看護の対象を理解できる	レスポンスシート	教科書2
6	看護の対象を取り巻く環境を理解できる	講義・演習	教科書3 資料
7	看護の対象を取り巻く環境を理解できる	講義・演習	教科書3 資料
8	看護の提供者としての態度を理解できる	講義	教科書4
9	看護の提供者としての態度を理解できる	講義・演習	教科書4
10	看護における倫理を理解できる	講義・演習	教科書5
11	看護における倫理を理解できる	講義	教科書5
12	看護の提供のしくみを理解し社会を理解できる	講義	教科書6
13	看護の提供のしくみを理解し社会を理解できる	講義	教科書6
14	看護の活動領域を理解できる	講義	教科書7
15	看護の活動領域を理解できる	講義	教科書7
	テスト	筆記試験	
受講上の注意 ・理論や知識を、自己の考えをもとに文章化・言語化できることを目指す		評価方法 レスポンスシート 10点 筆記試験 90点	
使用するテキスト 系統看護学講座 専門分野 看護学概論 (基礎看護学1) 医学書院			
参考文献 国民衛生の動向 一般財団法人厚生労働統計協会			

科目名 看護倫理	1年次 1単位 15時間	講義担当者名	
事前学習内容 自己の周囲にある倫理的課題を考えておく			
科目全体のねらい・授業目標 ・看護の臨床において倫理的課題に気づくことができる ・看護の臨床において倫理的課題を分析する手がかりやなすべきことを理解できる			
ディプロマ・ポリシー(卒業時の目標)との関連 ・生命の尊重・人間性の尊重について理解できる ・専門職業人として問題意識を持ち責任ある行動がとれる			
授業の流れ(全体のスケジュール回数、学習内容、方法、学習成果、使用テキスト、準備物品など)			
回	内 容	方 法	備 考
1	なぜ倫理を学ぶのか理解できる	講義	教科書1部 1~2、3~5
2	倫理的な考え方や生命倫理とは何か理解できる	講義	教科書1部 1~2、3~5
3	看護倫理を学ぶ意義を理解できる	講義・演習	教科書2部6
4	専門職の倫理について理解できる	講義・演習	教科書2部7
5	倫理的問題への分析とアプローチを理解できる	講義	教科書2部8
6	倫理的問題への分析とアプローチを理解できる	講義	教科書2部9
7	事例から倫理的課題の分析ができる	講義	教科書3部10
	テスト	筆記試験	
受講上の注意 看護の臨床において倫理的課題を見つけ、分析、 アプローチできることを目指す			評価方法 筆記試験 100点
使用するテキスト 系統看護学講座 別巻 看護倫理 医学書院			
参考文献 よくわかる看護職の倫理綱領 (第3版) 照林社			

科目名 看護研究	3年次 1単位 30時間	講義担当者名	
事前学習内容 興味のある看護研究について事前に調べておく			
科目全体のねらい・授業目標 ・基礎看護教育レベルの質的・量的研究を理解 ・研究デザインを具体化			
ディプロマ・ポリシー(卒業時の目標)との関連 ・自己を洞察し、理論と実践を統合することができる ・看護の向上を目指して、主体的・積極的に継続学習する姿勢を持つことができる			
授業の流れ(全体のスケジュール回数、学習内容、方法、学習成果、使用テキスト、準備物品など)			
回	内 容	方 法	備 考
1	第1章 看護研究とは	講義	教科書
2	第2章 看護研究の始め方	講義	
3	第3章 情報の検索と吟味	講義	
4	第4章 研究における倫理的配慮	講義	
5	第5章 研究デザイン	講義	
6	第6章 データの収集	講義	教科書
7	第6章 データの収集	講義	
8	第7章 データの分析	講義	
9	第7章 データの分析	講義	
10	第8章 研究計画書の作成	講義	
11	第8章 研究計画書の作成	講義	
12	第9章 研究を伝える	講義	
13	第10章 ケースレポート・事例研究の進め方	講義	
14	第11章 調査研究の進め方	講義	
15	第12章 文献研究・実践報告の進め方	講義	
	テスト	筆記試験	
受講上の注意 ・看護基礎教育レベルの質的・量的研究・事例研究の理解		評価方法 筆記試験 100点	
使用するテキスト 系統看護学講座 別巻 看護研究 医学書院			
参考文献			

科目名 共通基本技術 I	1年次 1単位 30時間	講義担当者名	
事前学習内容 聴診器を使って実際の呼吸音、心音を聴取しておくこと			
科目全体のねらい・授業目標 対象の看護実践にいかせるよう技術を習得する			
ディプロマ・ポリシー(卒業時の目標)との関連 ・グループダイナミクスを通して他者との関係の中で自己の役割を認識する ・人間を身体的、精神的、社会的側面から理解し看護について考えることができる			
授業の流れ(全体のスケジュール回数、学習内容、方法、学習成果、使用テキスト、準備物品など)			
回	内 容	方 法	備 考
1	看護技術とは何か理解できる	講義	教科書(序)、1
2	コミュニケーションの意義と目的が理解できる	講義	教科書1
3	ヘルスアセスメントの意味を理解できる	講義	教科書4-1、2
4	フィジカルアセスメントに必要な技術の理解	講義・演習	教科書4-3、4
5	ができる(視診、触診、聴診、打診)	講義・演習	
6	フィジカルアセスメントに必要な技術の習得	講義・演習	教科書4-3、4
7	ができる(視診、触診、聴診、打診)	講義・演習	
8	系統別フィジカルアセスメントが理解できる	演習	教科書4-1、2
9	呼吸器系、循環器系、乳房・腋窩 腹部、筋・骨格系、神経系	演習	教科書4-3、4
10		演習	教科書4-5、6
11	皮膚・爪、	実技試験	教科書4-7、8、9
12	心理・社会状態のアセスメントが理解できる	講義	教科書5-1、2
13	事例で社会的側面のアセスメントをし、	講義	教科書5-1、2
14	対象を理解できる	講義	
15	技術の習得について自己の課題を明確にできる	講義 レスポンスシート	
	テスト	筆記試験	
受講上の注意 この講義が終了した後は、対象のフィジカルアセスメントが向上できているよう目指す			評価方法 実技・筆記試験 100点
使用するテキスト 系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術 I (基礎看護学2)			医学書院
参考文献			

科目名 共通基本技術Ⅱ	1年次 1単位 15時間	講義担当者名	
事前学習内容 体験を通して学べるよう、実際の病室の環境を調べておくこと(室温、湿度、他)			
科目全体のねらい・授業目標 適切な技術の理解と習得することができる			
ディプロマ・ポリシー(卒業時の目標)との関連 ・人間の健康と生活を環境との相互作用の観点から理解する ・健康増進や疾病予防に関する因子について理解することができる			
授業の流れ(全体のスケジュール回数、学習内容、方法、学習成果、使用テキスト、準備物品など)			
回	内 容	方 法	備 考
1	看護技術の基盤について理解できる	講義	教科書(序)、1
2	医療安全・説明についての理解ができる	講義	教科書(序)、1
3	看護判断と看護技術の提供の理解ができる	講義	教科書1-1
4	環境調整技術の基礎知識が理解できる	講義・演習	教科書1-1
5	環境調整技術の実際を習得できる	講義・演習	教科書1-2
6	環境のアセスメント項目が理解できる	講義・演習	教科書1-2
7	総括	講義	教科書(序)~1-2
	テスト	筆記試験	
受講上の注意 この講義が終了した後は、対象の環境アセスメントが向上 できているよう目指す			評価方法 実技・筆記試験 100点
使用するテキスト 系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅱ(基礎看護学3) 医学書院			
参考文献			

科目名 共通基本技術Ⅲ	2年次 1単位 30時間	講義担当者名	
事前学習内容 看護過程とは何か調べてくる			
科目全体のねらい・授業目標 ・問題解決過程やクリティカルシンキング、リフレクション、倫理的判断といった 看護過程の基盤となる考え方を理解する			
ディプロマ・ポリシー(卒業時の目標)との関連 ・科学的根拠に基づいた看護過程の展開技術を習得する ・保健・医療・福祉チームの一員としてその人らしい生活を支えるための看護実践ができる			
授業の流れ(全体のスケジュール回数、学習内容、方法、学習成果、使用テキスト、準備物品など)			
回	内 容	方 法	備 考
1	看護過程とは何か概要を理解できる	講義	教科書
2	アセスメントについて理解できる	講義	教科書
3	看護診断について理解できる	講義	教科書
4	計画立案について理解できる	講義	教科書
5	実施・評価について理解できる	講義	教科書
6	看護過程を展開する際に基盤となる 考え方を理解できる	講義	教科書
7	問題解決過程、クリティカルシンキングの理解	講義	教科書
8	倫理的配慮と価値判断を理解できる リフレクションを理解できる	講義 講義・演習	教科書 教科書
9	看護過程の各段階を理解できる	講義・演習	教科書
10	アセスメントについて理解できる	講義・演習	教科書
11	看護診断について理解できる	講義・演習	教科書
12	看護計画、実施、評価について理解できる	講義・演習	教科書
13	看護記録について理解できる	講義	教科書
14	記載方法、管理の理解ができる	講義	教科書
15	学校の書式に基づいた看護記録での提出	講義・演習	教科書
	テスト	筆記試験	
受講上の注意 看護過程を理解し、実際の患者に展開できるよう臨むことを目指す		評価方法 課題提出 50点 筆記試験 50点	
使用するテキスト 系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅰ（基礎看護学2） 医学書院			
参考文献			

科目名 日常生活援助技術 I	1年次 1単位 30時間	講義担当者名	
事前学習内容 基礎看護技術の原理・原則を復習し、関連性を事前学習しておくこと。			
科目全体のねらい・授業目標 ・臨床現場でただちに活用できる技術にするために、臨床実践能力の構造の技術的側面から具体的な看護技術を習得する。 ・臨床現場で直ちに活用できる技術と人間の基本的欲求を満たす援助技術を理解する。			
ディプロマ・ポリシー(卒業時の目標)との関連 自らの能力に応じ、対象の健康レベルに適合した技術を習得することができる。			
授業の流れ(全体のスケジュール回数、学習内容、方法、学習成果、使用テキスト、準備物品など)			
回	内 容	方 法	備 考
1	1)食事援助技術:食事援助の基礎知識	講義	教科書
2	食事摂取の介助	DVD視聴・演習	教科書・DVD
3	摂食・嚥下訓練	講義	教科書・資料
4	非経口的栄養摂取の援助:中心静脈栄養	講義	教科書
5	経管栄養法	DVD視聴・演習	教科書・DVD
6	2)排泄援助技術:自然排尿・自然排便の基礎知識	講義	教科書・資料
7	導尿	講義	教科書
8	排便を促す援助	講義	教科書
9	ストーマケア	講義	教科書
10	症状排泄援助、おむつによる排泄援助	DVD視聴・演習	教科書・DVD
11	3)清潔・衣生活援助技術:清潔の援助の基礎知識	講義	教科書
12	清潔の援助の基礎知識	講義	教科書
13	清潔の援助の実際:入浴、シャワー浴、全身清拭	講義	教科書・資料
14	洗髪、手浴、足浴、陰部洗浄、整容、口腔ケア	DVD視聴・演習	教科書・DVD
15	病床での衣生活の援助	講義	教科書
	テスト	筆記試験	
受講上の注意 基礎看護技術の原理・原則を復習して臨む。グループワーク、演習には積極的に取り組み、基本的動作を身につけておくことが望ましい。		評価方法 筆記試験と演習の取り組みで総合的に評価する。	
使用するテキスト 系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅱ(基礎看護学3) 医学書院			
参考文献			

科目名 日常生活援助技術Ⅱ	1年次 1単位 30時間	講義担当者名	
事前学習内容 基礎看護技術の原理・原則を復習し、関連性を事前学習しておくこと。			
科目全体のねらい・授業目標  臨床現場で直ちに活用できる技術として、臨床実践能力の構造の技術的側面から選択・検討し、具体的な看護技術を習得する			
ディプロマ・ポリシー(卒業時の目標)との関連  自らの能力に応じ、対象の健康レベルに適合した技術を習得することができる。			
授業の流れ(全体のスケジュール回数、学習内容、方法、学習成果、使用テキスト、準備物品など)			
回	内 容	方 法	備 考
1	基本的活動の援助 ①基本的活動の援助 よい姿勢とホディメカクス	講義	教科書
2	②体位(様々な体位)	講義・演習:体位保持	教科書・資料
3	③体位変換	講義・演習:体位変換	教科書・DVD
4	④歩行の援助	講義	教科書
5	⑤移乗(ベッドから車椅子、ストレッチャーへ移る場合)	講義・演習:移乗	教科書・資料
	⑥移送(車椅子、ストレッチャーを用いる場合)	講義・演習:移送	
6	睡眠・休息の援助	講義	教科書
7	①援助の基礎知識(睡眠の種類、睡眠制御メカニズム)	講義	教科書
8	②睡眠障害のアセスメント(睡眠障害の要因など)	講義	教科書
9	③睡眠・休息の援助(体内時計リズム)	講義	教科書
10	④個別性に応じた睡眠習慣、入院生活スケジュール	講義	教科書
11	⑤リラクゼーションをすすめる	グループワーク	教科書・資料
12	⑥睡眠を妨げる考えや行動の修正	講義	教科書
13	⑦入浴・足浴で入眠を促す	講義・演習	教科書
14	⑧睡眠薬を使用する際の注意	講義	教科書
15	まとめと体位・移乗の技術確認	技術テスト	資料
	テスト	筆記試験	
受講上の注意 基礎看護技術の原理・原則を復習して臨む。グループワーク、演習には積極的に取り組み、基本的動作を身につけておくことが望ましい。		評価方法 筆記試験と演習の取り組みで総合的に評価する。	
使用するテキスト 系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅱ(基礎看護学3) 医学書院			
参考文献			

科目名 診療に伴う援助技術	1年次 1単位 30時間	講義担当者名	
事前学習内容 臨床薬理学や臨床検査での学びを復習し、関連性項目について事前学習しておくこと。			
科目全体のねらい・授業目標 臨床現場で直ちに活用できる技術として、臨床実践能力の構造の技術的側面から選択・検討し、看護実践に必要な診療の補助技術を理解する。			
ディプロマ・ポリシー(卒業時の目標)との関連 看護実践に必要な基礎的知識、技術を習得することができる。			
授業の流れ(全体のスケジュール回数、学習内容、方法、学習成果、使用テキスト、準備物品など)			
回	内 容	方 法	備 考
1	1)診療の介助:準備、診察時の援助、身体諸計測	講義	教科書
2	2)検査・処置の介助	講義・DVD視聴	教科書・DVD
3	①検査と看護	講義	教科書・資料
4	・検査の種類、検体の採取と取扱い方、採血	講義	教科書
5	・穿刺(各穿刺の基礎知識と援助の実際)	講義	教科書
6	3)与薬の技術	講義	教科書・資料
7	①与薬の基礎知識と看護師の役割	講義	教科書
8	②与薬の方法(経口、直腸内、点眼、吸入など)	講義	教科書
9	③注射・注射の基礎知識	講義	教科書
10	・注射の実際	演習:筋肉内注射	教科書
11	④輸血の管理	講義・DVD視聴	教科書・DVD
	4)ME機器の知識と技術	講義・DVD視聴	教科書・DVD
12	①輸液ポンプ、シリンジポンプ	演習:ポンプの操作	教科書・資料
13	②除細動器、③低持続吸引器	講義・DVD視聴	教科書・DVD
14	④パルスオキシメーター、EtCO2モニター	講義	教科書
15	⑤動脈血モニタリング、スワンガンツカテーテル、他	講義	教科書
	テスト	筆記試験	
受講上の注意 受業内容にあたる教科書のページを読んでから授業に臨み、演習では事前課題に取り組みに参加する。		評価方法 筆記試験と演習の取り組みで総合的に評価する。	
使用するテキスト 系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅱ(基礎看護学3) 医学書院			
参考文献			

科目名 精神看護学概論	1年次 1単位 30時間	講義担当者名	
事前学習内容 授業の前日までに教科書の該当するページを読んでおくことが望ましい。			
科目全体のねらい・授業目標 ・人間の精神機能の理解を基盤に、精神に影響を及ぼす要因および精神の危機的状況について理解できる。 ・精神看護における患者-看護師関係や治療的コミュニケーションについて理解できる。 ・現代社会における精神保健、精神看護をとりまく諸問題について理解を深める。			
ディプロマ・ポリシー(卒業時の目標)との関連 ・人間は、精神活動・信念・価値観を有している存在として理解することができる。 ・看護の対象を理解することができる。			
授業の流れ(全体のスケジュール回数、学習内容、方法、学習成果、使用テキスト、準備物品など)			
回	内 容	方 法	備 考
1	精神(心)を病むとはどういうことか	講義	教科書、資料
2	精神の働きと精神症状①	講義	教科書、資料
3	精神の働きと精神症状②	講義	教科書、資料
4	危機理論、ストレスとコーピング	講義	教科書、資料
5	自我の防衛機制	講義	教科書、資料
6	患者-看護師関係の理解、精神障がいをもつ人とのコミュニケーション	講義	教科書、資料
7	精神障がいをもつ人との関係の振り返り プロセスレコード①	講義、演習	教科書、資料
8	プロセスレコード②	講義、演習	教科書、資料
9	家族と精神の健康	講義	教科書、資料
10	現代社会と精神の健康	講義	教科書、資料
11	精神の健康のためのセルフマネジメント	講義	教科書、資料
12	地域精神保健について	講義	教科書、資料
13	リカバリーの概念	講義	教科書、資料
14	レジリエンス、ストレンクス	講義	教科書、資料
15	テスト	筆記試験	
受講上の注意 ・予習・復習として1時間程度の自己学習を行うことが望ましい。		評価方法 筆記試験 80点 提出物 20点	
使用するテキスト 精神看護学① 精神看護学概論/精神保健 メジカルフレンド社 精神看護学② 精神障害をもつ人の看護 メジカルフレンド社			
参考文献			

科目名 精神看護学方法論Ⅰ		2年次 1単位 30時間	講義担当者名
事前学習内容 授業の前日までに教科書の該当するページを読んでおくことが望ましい。			
科目全体のねらい・授業目標 ・精神障がいをもつ人へのセルフケア援助について理解できる。 ・精神障がいをもつ人の治療的環境と生活の場としての環境のあり方について理解できる。 ・精神障がいをもつ人に対する地域生活支援について理解できる。			
ディプロマ・ポリシー(卒業時の目標)との ・対象の特性を把握し、看護の必要性がわかる。 ・科学的根拠に基づいた思考の基礎がわかる。			
授業の流れ(全体のスケジュール回数、学習内容、方法、学習成果、使用テキスト、準備物品など)			
回	内 容	方 法	備 考
1	入院治療の意味	講義	教科書、資料
2	精神障がいをもつ人への看護過程の展開	講義	教科書、資料
3	オレムのセルフケア理論	講義	教科書、資料
4	精神障がいをもつ人のセルフマネジメント	講義	教科書、資料
5	事例で学ぶ:精神疾患/障がいをもつ人への看護①	演習	教科書、資料
6	事例で学ぶ:精神疾患/障がいをもつ人への看護②	演習	教科書、資料
7	事例で学ぶ:精神疾患/障がいをもつ人への看護③	演習	教科書、資料
8	精神科病棟における安全管理① 病棟環境の整備	講義	教科書、資料
9	精神科病棟における安全管理② 自殺、攻撃的行動	講義	教科書、資料
10	精神科リハビリテーション	講義	教科書、資料
11	精神療法について	講義	教科書、資料
12	精神障がい者へのケアシステムと支援に関する法制度	講義	教科書、資料
13	精神障がい者の理解	講義	DVD視聴
14	映画「ビューティフル・マインド」の視聴を通して		
15	テスト	筆記試験	
受講上の注意 ・予習・復習として1時間程度の自己学習を行うことが望ましい。			評価方法 筆記試験 80点 提出物 20点
使用するテキスト 精神看護学① 精神看護学概論/精神保健 メヂカルフレンド社 精神看護学② 精神障害をもつ人の看護 メヂカルフレンド社			
参考文献			

科目名 精神看護学方法論Ⅱ	2年次 1単位 15時間	講義担当者名	
事前学習内容 授業の前日までに教科書の該当するページを読んでおくことが望ましい。			
科目全体のねらい・授業目標 ・精神疾患をもつ対象の経過や主要症状が理解できる。 ・精神障疾患の治療・処置が理解できる。 ・精神障がいをもつ人を守る法律・制度が理解できる。			
ディプロマ・ポリシー(卒業時の目標)との関連 ・対象の特性を把握し、看護の必要性がわかる。 ・臨床判断を行うための基礎がわかる。			
授業の流れ(全体のスケジュール回数、学習内容、方法、学習成果、使用テキスト、準備物品など)			
回	内 容	方 法	備 考
1	総論	講義	教科書、資料
2	精神疾患の理解① 統合失調症	講義	教科書、資料
3	精神疾患の理解② うつ病	講義	教科書、資料
4	精神疾患の理解③ その他の精神障がい	講義	教科書、資料
5	精神疾患の理解④ その他の精神障がい	講義	教科書、資料
6	精神科治療	講義	教科書、資料
7	精神保健にかかわる法律について	講義	教科書、資料
8	テスト	筆記試験	
受講上の注意 予習・復習として2時間程度の自己学習を行うことが望ましい。			評価方法 筆記試験100点
使用するテキスト 精神看護学① 精神看護学概論/精神保健      メヂカルフレンド社 精神看護学② 精神障害をもつ人の看護      メヂカルフレンド社			
参考文献			

科目名 医療安全	1年次 1単位 15時間	講義担当者名	
事前学習内容 授業の前日までに教科書の該当するページを読んでおくことが望ましい。			
科目全体のねらい・授業目標 ・医療安全の基礎的知識が理解できる。 ・チーム医療の中で、医療安全の基礎的知識に基づいた看護実践が意識できる。			
ディプロマ・ポリシー(卒業時の目標)との関連 ・医療安全の基礎的知識に基づいた思考で、看護実践をチームで安全に行うための基礎的な能力を養う。 ・看護の質の向上を目指し、自己研鑽に努め看護を探究する能力を養う。			
授業の流れ(全体のスケジュール回数、学習内容、方法、学習成果、使用テキスト、準備物品など)			
回	内 容	方 法	備 考
1	事故防止の考え方 診療の補助の事故防止	講義	教科書、資料
2	療養上の世話の事故防止	講義	教科書、資料
3	業務領域を超えて共通する間違いと発生要因	講義	教科書、資料
4	医療安全とコミュニケーション	講義	教科書、資料
5	看護師の労働衛生上の事故防止	講義	教科書、資料
6	精神保健にかかわる法律について	講義	教科書、資料
7	医療安全対策の国内外の潮流	講義	教科書、資料
8	テスト	筆記試験	
受講上の注意 予習・復習として2時間程度の自己学習を行うことが望ましい。			評価方法 筆記試験100点
使用するテキスト 系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践2 医療安全 医学書院			
参考文献			

科目名 看護管理	2年次 1単位 15時間	講義担当者名	
事前学習内容 授業の前日までに教科書の該当するページを読んでおくことが望ましい。			
科目全体のねらい・授業目標 ・チーム医療の中で期待されるリーダーシップや看護をマネジメントする基礎的知識が理解できる。 ・看護師としてのメンバーシップやリーダーシップ、多職種との連携・協働が理解できる。			
ディプロマ・ポリシー(卒業時の目標)との関連 ・看護におけるマネジメントの基礎的知識を理解する。 ・チーム医療における多職種との協働の中で、看護師として果たすべき責任と役割を理解する。			
授業の流れ(全体のスケジュール回数、学習内容、方法、学習成果、使用テキスト、準備物品など)			
回	内 容	方 法	備 考
1	看護とマネジメント 1)看護の場 2)目的とプロセス	講義	教科書、資料
2	看護基準・手順、クリティカルパス、情報の活用、多重課題に対する考え方や対処	講義	教科書、資料
3	看護師のキャリア形成 看護ケア提供システム	講義	教科書、資料
4	労働安全衛生、交替勤務、ワークライフバランス、情報のマネジメント	講義	教科書、資料
5	看護サービスのマネジメント、組織の構成と職務	講義	教科書、資料
6	マネジメントに必要な知識と技術	講義	教科書、資料
7	看護を取り巻く諸制度 看護行政の動向とマネジメント	講義	教科書、資料
8	テスト	筆記試験	
受講上の注意 予習・復習として2時間程度の自己学習を行うことが望ましい。			評価方法 筆記試験100点
使用するテキスト 系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践1 看護管理 医学書院			
参考文献			

科目名 災害と国際看護	2年次 1単位 15時間	講義担当者名	
事前学習内容 授業の前日までに教科書の該当するページを読んでおくことが望ましい。			
科目全体のねらい・授業目標 ・災害が人々の生命や生活に及ぼす影響が理解できる。 ・災害時の医療を支える仕組みや災害各期の特徴と看護が理解できる。 ・諸外国における保健・医療・福祉の動向と課題について理解できる。 ・国際看護の現状と国際社会での諸外国との協力について理解できる。			
ディプロマ・ポリシー(卒業時の目標)との関連 ・自然・社会・文化的環境との相互作用の観点から、人々の健康と生活を理解する。 ・看護の質の向上に向け、看護を探究する能力を養成する。			
授業の流れ(全体のスケジュール回数、学習内容、方法、学習成果、使用テキスト、準備物品など)			
回	内 容	方 法	備 考
1	災害看護・国際看護を学ぶにあたって 1)グローバル化した社会 2)求められる災害看護と国際看護	講義	教科書、資料
2	災害医療・看護の基礎知識 災害サイクルに応じた活動現場別の災害看護	講義	教科書、資料
3	被災者特性に応じた災害看護 災害とこころのケア	講義	教科書、資料
4	地震災害看護の展開(災害直後～復興期)	講義	教科書、資料
5	国際看護とは 看護の対象となる人々の健康課題	講義	教科書、資料
6	グローバルヘルス、看護国際協力、文化ケア	講義	教科書、資料
7	国際看護の展開過程 開発協力と看護、国際支援と看護 災害看護学・国際看護学における教育・研究	講義	教科書、資料
8	テスト	筆記試験	
受講上の注意 予習・復習として2時間程度の自己学習を行うことが望ましい。		評価方法 筆記試験100点	
使用するテキスト 系統看護学講座 専門分野 災害看護学・国際看護学(看護の統合と実践3) 医学書院			
参考文献			

科目名 総合看護技術	3年次  1単位 45時間	講義担当者名	
事前学習内容 ・事前オリエンテーションで内容を理解し把握する。 ・必要な学習をして望む			
科目全体のねらい・授業目標 ・看護を総合的に展開し、臨床に適応できるように知識・技術・態度の統合を図ることができる。 ・複合的な臨床場面において、統合的な判断で対応し、看護実践能力を高めることができる。			
ディプロマ・ポリシー(卒業時の目標)との関連 ・知識・技術・態度を統合し、対象者の状況や健康状態に応じた看護を実践するための基礎的能力を養う。 ・自己研鑽に勤め、看護を探究する能力を養う。			
授業の流れ(全体のスケジュール回数、学習内容、方法、学習成果、使用テキスト、準備物品など)			
回	内 容	方 法	備 考
1～15	総合看護技術オリエンテーション ・複数の事例に応じた患者の疾患を理解し、優先順位を考えた看護計画の立案をする。	オリエンテーション 演習	資料
	看護技術グループワーク ・事例についてグループワークを行い、チームメンバーと連携しながら、状況に応じた看護実践を行う。	グループワーク	資料
1～7	学内演習 ・事例検討をもとに、模擬患者に対して看護実践を行う。	演習	資料
	総合看護技術試験	実技試験	看護実践の評価を行い、知識・技術・態度の振り返りを行う。
	総合看護技術筆記試験	筆記試験	
受講上の注意 ・内容と方法を理解し臨みましょう。 ・協調性を持ち、主体的な態度で臨みましょう。 ・試験内容は漏洩しないでください。			評価方法 実技試験と筆記試験の結果を総合的に判断する。
使用するテキスト 担当教員の配布資料等			
参考文献			

科目	1年次	講義担当者名	
地域・在宅看護概論 I	1単位 30時間		
事前学習内容 教科書の講義の内容の部分を事前に熟読する。			
<b>科目全体のねらい</b> 地域で生活する人々とその家族の健康と暮らしが在宅看護の基本であり、その人々を継続的に支援する能力を養う。そのため、この概論においては「健康と暮らし」を支える看護についてその基盤となる考え方や、対象者、家族を理解するための基本を理解する。			
<b>授業目標</b> 1、多様な生き方や価値観をもつ在宅看護の対象者とその家族を理解し、多様な場における看護を実践するための基礎的能力を身につけ、その必要性が理解できる。 2、在宅看護における倫理的な問題について理解を深めることができる。 3 健康の保持増進、疾病の予防、健康に回復に関わる実践能力の必要性を理解できる。 4、地域社会においても看護職間での連携・多職種との協働等の重要性を理解できる。			
<b>ディプロマ・ポリシー(卒業時の目標)との関連</b> ・ 人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として幅広く理解する能力を養う。 ・ 看護職としての倫理観をもち、法令を遵守して行動することを理解する。 ・ 健康課題を持ちながらもその人らしく過ごせるよう、生活の質(QOL)の維持・向上に向けて支援する			
授業の流れ(全体のスケジュール回数、学習内容、方法、学習成果、使用テキスト、準備物品など)			
回	内 容	方 法	備 考
1	地域とは何かを考え自分の暮らす地域を理解することができる。	講義・演習	文献や教科書により調査レポートで提出する。
2	自分の住んでいる地域を振り返り、生活する、暮らすとは何かを理解することができる。また、社会情勢の変化について理解できる。	講義・演習	
3	暮らしと健康の関係を理解することができる。	演習・講義	健康と暮らしの関係について疾患を例に考える。
4	地域・在宅看護の役割を理解することができる。	講義・演習	教科書P25の演習を行い習得する。
5	暮らしは地域の中で行われていることについて理解することができる 自分の生活が地域のどの部分と繋がっているのかを考え理解することができる。	講義	
6	システム思考やシステム論の理解を通して地域と暮らしを理解することができる。	演習・講義	
7	地域包括ケアシステムについて理解することができる。	演習・講義	
8	ライフステージから対象を理解し、各期の課題と生活の関係について理解することができる。	講義	
9	健康レベルが暮らしと関係することについて理解することができる。	講義	
10	在宅看護の対象が本人及び家族であることを理解することができる。	講義	小テスト
11	地域における暮らしを支える看護とはどのようなものであるのかを理解することができる。	講義	
12	訪問時の看護師の心得を理解することができる。	実技	
13	看護の対象を対象者本人と家族であり、地域との関係について理解することができる。	講義	
14	ライフステージに応じた在宅看護の必要性や実践を理解することができる。	講義	
15	在宅看護における生活上のリスクを認識し災害予防について理解することができる。	講義	
16	テスト	筆記試験	
受講上の注意		評価方法 提出物・小テスト20点 筆記試験 80点	
使用するテキスト 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の基盤 (地域・在宅看護論 I) 医学書院			
<b>参考文献</b> 看護マネジメント入門(第2版) 日本看護協会出版会			

科目 地域・在宅看護概論 II		1年次 1単位 30時間	講義担当者名
事前学習内容 教科書の講義の内容の部分を事前に熟読する。			
科目全体のねらい 地域で生活する人々とその家族の健康と暮らしを継続的に支援する能力を養う。そのため、社会資源や法制度について理解する。 授業目標 1、在宅療養者支援での多職種連携の必要性和地域包括ケアシステムについて理解できる。 2、地域社会においても看護職間での連携・多職種との協働等の重要性を理解できる。 3、在宅生活に影響のある社会制度や法令について理解できる。			
ディプロマ・ポリシー(卒業時の目標)との関連 ・生涯各期における健康の保持増進や疾病予防における看護の役割を説明する ・対象者の選択権や自己決定権を尊重し対象者及び家族の意思決定を支援する。 ・対象者をとりまく保健・医療・福祉関係者間の協働の必要性について理解する。 ・看護職としての倫理観をもち、法令を遵守して行動する。			
授業の流れ(全体のスケジュール回数、学習内容、方法、学習成果、使用テキスト、準備物品など)			
1	地域の暮らしはさまざまな場や職種で支えられていることを理解することができる。	講義	教科書
2	地域・在宅看護における多職種連携、特に医療職、福祉職間について必要であることを理解することができる。	講義	教科書
3	在宅看護の対象として特に多い認知症について理解することができる。	演習・講義	教科書
4	介護保険・医療保険制度の歴史について理解することができる。	講義	教科書
5	介護保険・医療保険制度のしくみについて理解することができる	講義	教科書
6	地域の医療提供体制について理解することができる。	講義	教科書
7	訪問看護の制度の歴史、内容について理解することができる。	講義	教科書
8	ケアマネジメントの要素や機能、過程等について理解することができる。	講義	教科書
9	ケアマネジメントと社会資源の必要性や利用について理解することができる。	講義	教科書
10	地域保健に関わる法制度について理解することができる。	講義	教科書
11	自助、互助、共助、公助等と地域共生社会の関係について理解することができる。	演習・講義	教科書
12	高齢者に関する法制度について理解することができる。	講義	教科書
13	公費負担を含む障がい者・難病に関する法制度について理解することができる。	講義	教科書
14	虐待予防を含む権利擁護に関連する制度について理解することができる。	講義	教科書
15	対象者等の個人情報の保護等の権利保障に関連する制度について理解する事ができる。	講義	教科書
16	テスト	筆記試験	
受講上の注意		評価方法 筆記試験 100点	
使用するテキスト 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の基盤 (地域・在宅看護論 I) 医学書院			
参考文献			

科目名	2年次	講義担当者名	
地域・在宅看護方法論 I	1単位		
	15時間		
事前学習内容			
<b>科目全体のねらい</b> 地域で生活する人々とその家族の健康と暮らしを継続的に支援する能力を養う。 <b>授業目標</b> 1、多様な生き方や価値観をもつ在宅看護の対象者とその家族を理解し、在宅看護の実践のための看護過程について必要性が理解できる 2、在宅看護の看護過程の立案・実践・評価の流れを理解することができる。 3、在宅看護の看護過程において多職種との連携・協働等の重要性を理解できる。			
<b>ディプロマ・ポリシー(卒業時の目標)との関連</b> ・対象者を身体的・心理的・社会的・文化的側面から総合的に理解する。 ・根拠に基づき、看護を計画的に実践する能力を習得することができる。			
授業の流れ(全体のスケジュール回数、学習内容方法、学習成果、使用テキスト、準備物品など)			
回	内 容	方 法	備 考
1	地域・在宅看護論における看護過程の意義について理解することができる。	講義	
2	地域・在宅看護論における対象者の理解と多様な価値観について理解することができる。	講義	
3	地域・在宅看護論におけるケアマネジメントについて理解することができる。	講義・演習	
4	ICFモデルについての理解と在宅看護の展開について理解することができる。	講義	
5	在宅看護の看護過程の展開のための情報収集とアセスメントについて理解することができる。	講義・演習	
6	在宅看護の看護目標の設定・計画について理解することができる。	講義・演習	
7	在宅看護の看護過程の実施、評価及び標準化について理解することができる。	講義	
8	テスト	筆記試験	
受講上の注意			評価方法 筆記試験 100点
使用するテキスト			
系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の実践(地域・在宅看護論2)		医学書院	
参考文献			
看護過程		医学書院	

科目名 地域・在宅看護方法論Ⅱ	2年次 1単位 30時間	講義担当者	
事前学習内容 教科書の講義の内容の部分を事前に熟読する。			
<b>科目全体のねらい・</b> 地域で生活する人々とその家族の健康と暮らしを継続的に支援する能力を養う。 <b>授業目標</b> 1 多様なライフサイクルや健康レベルにある個人や家族、集団が、健康の維持増進や疾病予防を 目指した生活の展開を行なっていることを理解 できる 2、在宅療養生活における安全、安楽な根拠を持った看護技術の展開について理解できる。 3、在宅療養者支援での多職種連携の必要性と地域包括ケアシステムについて理解できる。			
<b>ディプロマ・ポリシー(卒業時の目標)との関連</b> ・科学的根拠に基づいて思考し看護実践に必要な臨床判断のための基礎的な能力を養う、 ・在宅療養者と家族へ安全で安楽な看護技術に提供を行う基礎的な能力を獲得する。 ・健康課題を持ちながらもその人らしく過ごせるよう、生活の質(QOL)の維持・向上に向けて支援する。			
授業の流れ(全体のスケジュール回数、学習内容、方法、学習成果、使用テキスト、準備物品など)			
回	内 容	方 法	備 考
1	暮らしにくさを考えて暮らしの場での看護の実践の必要性について理解することができる。	講義	教科書
2	在宅看護を行う心構えについて理解することができる。	講義	教科書
3	在宅看護におけるパートナーシップについて理解することができる。	講義	教科書
4	在宅看護の技術としてのコミュニケーションについて理解することができる。	講義	教科書
5	在宅看護の家族支援の重要性について理解することができる。	講義	教科書
6	在宅看護におけるリスクマネジメントを理解することができる。	講義	教科書
7	在宅看護における療養環境調整の支援について理解することができる。	講義	教科書
8	在宅看護における活動・休息の支援について理解することができる。	DVD視聴・講義	視聴覚教材
9	在宅看護における食生活・経口摂取等の支援について理解することができる。	DVD視聴・講義	視聴覚教材
10	在宅看護における排泄、清潔の支援について理解することができる。	DVD視聴・講義	視聴覚教材
11	在宅看護における苦痛の緩和、安全確保などの支援について理解することができる。	DVD視聴・講義	視聴覚教材
12	在宅看護における呼吸、循環、創傷のケアの支援について理解することができる。	講義	教科書
13	在宅看護の健康、外来、入院、退院前等の時期別看護について理解することができる。	講義	教科書
14	在宅看護の移行期、安定期の時期別看護について理解することができる。	講義	教科書
15	在宅看護の急性増悪期、終末期の時期別看護について理解することができる。	講義	教科書
16	テスト	筆記試験	教科書
受講上の注意		評価方法	筆記試験 100点
使用するテキスト 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の実践 (地域・在宅看護論2)		医学書院	
参考文献 在宅看護技術 メジカルフレンド社			

<b>科目名</b> 地域・在宅看護方法論Ⅲ		2年次 1単位 30時間	講義担当者名
事前学習内容 教科書の講義の内容の部分を事前に熟読する。			
<b>科目全体のねらい</b> 地域で生活する人々とその家族の健康と暮らしを継続的に支援する能力を養う。 暮らしの場において提供される医療的ケアについて対象者の特徴や看護技術及び生活の場で展開される看護過程について学ぶ。			
<b>授業目標</b> 1在宅看護の対象者とその家族を理解し、看護を実践するための能力を習得することが理解できる 2在宅看護における倫理的な問題について意識を深めることができる。 3在宅療養者支援での多職種連携の必要性と地域包括ケアシステムについて理解できる。 4本科目での学修をふまえ、在宅看護を発展的に考え、さらには研究に繋げることができるような基礎的能力を身に付けることができる。			
<b>ディプロマ・ポリシー(卒業時の目標)との関連</b> ・在宅の療養者と家族が健康問題に向き合う過程を理解することができる。 ・健康課題を持ちながらもその人らしく過ごせるよう生活の質(QOL)の維持・向上に向けて支援する。 ・地域包括ケアシステムの観点から多様な場における看護の機能と役割について理解する。 ・看護の質の向上に努める必要性を理解する。			
授業の流れ(全体のスケジュール回数、学習内容、方法、学習成果、使用テキスト、準備物品など)			
回	内 容	方 法	備 考
1	医療的ケア児・脳卒中療養者の事例について理解することができる。	講義	教科書
2	COPD・ALSの療養者の事例について理解することができる。	講義	教科書
3	パーキンソン病・統合失調症の療養者の事例について理解することができる。	講義	教科書
4	認知症・がん末期の療養者の事例について理解することができる。	講義	教科書
5	在宅看護における多職種連携・多職種チームでの看護師の役割について理解することができる。	講義	教科書
6	在宅看護における多職種連携・多職種チームでの連携・協働について理解することができる。	講義	教科書
7	在宅看護における医療・福祉・介護関係者以外との連携について理解することができる。	講義	教科書
8	在宅看護における共生社会の実現のための協働について理解できる。	講義	教科書
9	地域・在宅看護マネジメントの考え方について理解することができる。	講義	教科書
10	病棟や外来における地域・在宅看護マネジメントを理解することができる。	講義	教科書
11	介護保険制度上の地域・在宅看護マネジメントを理解することができる。	講義	教科書
12	地域・在宅看護活動の創造とは何かを理解することができる。	講義	教科書
13	「暮らしの保健室」の活動について理解することができる。	講義	教科書
14	地域・在宅看護活動を創造するための考え方を理解することができる。	講義・演習	教科書
15	地域・在宅看護活動の今後について看護師の役割を理解することができる。	演習	教科書
16	テスト	筆記試験	
受講上の注意		評価方法	筆記試験 100点
使用するテキスト 地域・在宅看護の実践 (地域・在宅看護論2) 医学書院			
参考文献 看護マネジメント入門 日本看護協会出版会			

科目名 成人看護学概論		1年次  1単位 30時間	講義担当者名
事前学習内容			
科目全体のねらい・授業目標 ライフサイクルにおける成人期の対象を理解し、看護の役割について理解する。			
ディプロマ・ポリシー(卒業時の目標)との関連 ・ 対象の成長発達段階、健康の段階に応じた看護を理解することができる。 ・ 看護実践に必要な基礎的知識・技術を習得することができる。 ・ 健康の保持増進・疾病予防・健康の回復・エンドオブライフなど健康状態に応じた看護を実践することができる。			
授業の流れ(全体のスケジュール回数、学習内容、方法、学習成果、使用テキスト、準備物品など)			
回	内 容	方 法	備 考
1	人口動態と人口構成から成人期の位置づけが理解できる。 人口構造の変化から社会構造の変化について理解することができる。	講義	国民衛生の動向
2	成人各期の特徴(発達段階)について理解することができる。	講義	
3	成人各期の健康問題とその背景要因となっているものについて理解することができる。	GW	
4			
5	一次・二次・三次予防について理解することができる。 ヘルスプロモーションについて理解することができる。 (社会構造の変化とヘルスプロモーションの変遷など)	講義	
6	成人期の特徴を踏まえた急性期看護・援助について理解することができる。	講義	
7	1) 危機理論・フインクの危機理論・ストレスコーピングなど 2) 急性期にある対象(成人期)及び家族の支援について	講義	
8	成人期の特徴を踏まえた慢性期看護・援助について理解することができる。	講義	
9	1) コンプライアンスとアドヒアランス 2) 病みの軌跡	講義	
10	3) 慢性期にある対象(成人期)及び家族の支援について	講義	
11	成人期の特徴を踏まえた回復期看護・援助について理解することができる。	講義	
12	1) ICIDHとICF 2) 障害受容過程 自己受容・社会受容	講義	
13	3) 回復期における対象(成人期)及び家族の支援について	講義	
14	成人期の特徴を踏まえた終末期看護・援助について理解することができる。	講義	
15	1) ターミナル期の定義 2) キューブラロスの心理過程 2) ターミナル期の社会的特徴と家族について		
受講上の注意			評価方法 筆記試験 100点
使用するテキスト 成人看護学概論 医学書院			
参考文献 国民衛生の動向			



科目名	2年次 1単位 30時間	講義担当者名	
成人看護学方法論Ⅱ			
事前学習内容			
科目全体のねらい・授業目標 リハビリテーション期における対象を理解し、看護について学ぶ。			
ディプロマ・ポリシー(卒業時の目標)との関連 ・ リハビリテーション期にある患者の身体的、社会的、精神的側面を理解することができる。 ・ 看護実践に必要な基礎的知識・技術を習得することができる。 ・ 障害をもちながら回復過程をたどる患者の看護が理解できる。			
授業の流れ(全体のスケジュール回数、学習内容、方法、学習成果、使用テキスト、準備物品など)			
回	内 容	方 法	備 考
1	リハビリテーションの意味について理解することができる。	講義	
2	日本国憲法生存権と障害施策の変遷について理解することができる。	講義	資料
3	人権思想の普及と障害者福祉の理念の発展について理解することができる。	講義	
4	障害者分類ICIDHと国際生活機能分類ICFの違いについて理解することができる。	講義	資料
5	国際生活機能分類ICFの考え方を理解することができる。	講義	資料
6	リハビリテーションチームにおける看護師の役割について理解することができる	講義	
7	リハビリテーションを必要とする人の心理的特徴について理解することができる。	講義	資料
8	患者および家族が障害を受容する過程について理解することができる。	講義	資料
9	脳神経障害のある患者について理解することができる。	GW	
10	1) 意識障害 2) 高次脳機能障害 3) 運動・感覚障害 など		
11	脳神経障害がもたらす日常生活への影響について理解することができる。	講義	
12	脳神経障害のある患者の日常生活援助について理解することができる。 1) 脳神経障害をもった患者の食事援助技術およびアセスメントについて理解することができる。	演習	
13	脳神経障害をもった患者の排泄援助技術およびアセスメントについて理解することができる。	演習	
14	脳神経障害をもった患者の清潔(入浴も含む) 援助技術およびアセスメントについて理解することができる。	演習	
15	脳神経障害をもった患者の活動に対する援助技術およびアセスメントについて理解することができる。		
受講上の注意		評価方法 筆記試験 100点	
使用するテキスト リハビリテーション看護論(第3版)                      ヌーベルヒロカワ			
参考文献			

科目名 成人看護学方法論 III	2年次 1単位 30時間	講義担当者名	
事前学習内容			
科目全体のねらい・授業目標 1. 慢性期における対象の特性と看護のあり方について学ぶ。 2. 終末期における対象の特性と看護のあり方について学ぶ。			
ディプロマ・ポリシー(卒業時の目標)との関連 ・ その人らしい生活を支えるための看護について理解できる。			
授業の流れ(全体のスケジュール回数、学習内容、方法、学習成果、使用テキスト、準備物品など)			
回	内 容	方 法	備 考
1	慢性期とは何かについて理解することができる。	講義	
2	慢性期にある疾患の特徴について理解することができる。 慢性期における身体的特徴について理解することができる。	講義	
3	慢性期にある人々の心理・社会的特徴について理解することができる。	講義	視聴覚教材
4	慢性期看護の特徴について理解することができる。	講義	
5	危機的患者の心理について理解することができる。 危機理論について理解することができる。	講義	資料
6	危機的患者への看護介入方法について理解することができる。	講義	
7	健康学習支援が必要な人と家族への看護介入方法について理解することができる。	講義	
8	終末期と倫理的問題について理解することができる。	講義	
9	緩和ケアとは何かを知り、緩和ケアにおける看護の役割について理解する。	講義	
10	全人的苦痛、精神的苦痛、社会的苦痛、霊的苦痛について理解することができる。	講義	
11	終末期患者における日常生活の支援方法について理解することができる。	講義	
12			
13	終末期にある患者の家族の体験から遺族へのケアのあり方について理解することができる。	講義	資料
14	在宅における看取りに必要な多職種とのチームケアについて理解することができる。	講義	
15	自宅で最期を迎える患者、看取りをする家族へのケアを理解することができる。	講義	
受講上の注意		評価方法 筆記試験 100点	
使用するテキスト 終末期看護：エンド・オブ・ライフ・ケア                      メジカルフレンド社 慢性期看護    メジカルフレンド社			
参考文献			

科目名 老年看護学概論	1年次後期 1単位 30時間	講義担当者名	
事前学習内容 教科書の指定されたページと内容を確認する。			
科目全体のねらい・授業目標 老年期にある対象と特徴を理解する。高齢者を取り巻く社会の現況と保健医療福祉の動向を理解する。老年看護の役割を理解する。高齢者の特徴を踏まえたヘルスアセスメントを理解する。			
ディプロマ・ポリシー(卒業時の目標)との関連 様々な健康と発達段階にある高齢者とその家族の対象理解を深める。高齢者を取り巻く社会の現況を理解し、老年看護の役割を学ぶ。			
授業の流れ(全体のスケジュール回数、学習内容、方法、学習成果、使用テキスト、準備物品など)			
回	内 容	方 法	備 考
1	老いるということ、老いを生きるということ	講義	教科書・資料
2	加齢に伴う身体的・心理的・社会的側面の変化	講義	教科書・資料
3	高齢者の定義、発達と成熟	講義	教科書・資料
4	超高齢社会と社会保障 超高齢社会の統計	講義	教科書・資料
5	保健・医療・福祉の動向	講義	教科書・資料
6	介護保険制度、高齢者医療	講義	教科書・資料
7	高齢者の権利擁護	講義	教科書・資料
8	老年看護のなりたち	講義	教科書・資料
9	老年看護の役割	講義	教科書・資料
10	老年看護における理論・概念の活用	講義	教科書・資料
11	老年看護に携わる者の責務	講義	教科書・資料
12・ 13	高齢者のヘルスアセスメント ヘルスアセスメントの基本	講義	教科書・資料
14・ 15	身体に加齢変化とアセスメント	講義	教科書・資料
16	テスト	筆記試験	
受講上の注意 高齢者の特徴を学び、対象理解に活かしましょう。高齢者を取り巻く社会の現況から、老年看護の役割を理解しましょう。		評価方法 筆記試験 100点	
使用するテキスト 系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院			
参考文献 生活機能から見た老年看護過程 医学書院			

科目名 老年看護学方法論 I	2年次 1単位 30時間	講義担当者名	
事前学習内容 教科書の指定されたページと内容を確認する。			
科目全体のねらい・授業目標 高齢者への日常生活の援助を理解する。高齢者に特徴的な疾病や症状・治療処置別の看護を理解する。高齢者とその家族に対する生活・療養の場における看護を理解する。高齢者の特徴をいかした看護過程の考え方と展開方法を理解する。			
ディプロマ・ポリシー(卒業時の目標)との関連 高齢者の生活機能を整える看護や健康逸脱からの回復を促す看護、高齢者の特徴をいかした看護過程を学び、看護を実践するための基礎的な能力を養う。			
授業の流れ(全体のスケジュール回数、学習内容、方法、学習成果、使用テキスト、準備物品など)			
回	内 容	方 法	備 考
1・2	I. 高齢者の生活機能を整える看護 活動、食事と食生活、排泄、清潔、生活リズム、コミュニケーション、セクシュアリティ、社会参加	講義	教科書・資料
3・4	II. 健康逸脱からの回復を促す看護 症候のアセスメントと看護	講義	教科書・資料
5	身体疾患のある高齢者の看護 認知機能障害のある高齢者の看護	講義	教科書・資料
6	III. 治療を必要とする高齢者の看護 検査を受ける高齢者の看護	講義	教科書・資料
	薬物療法を受ける高齢者の看護		
7	手術を受ける高齢者の看護	講義	教科書・資料・DVD等
	リハビリテーションを受ける高齢者の看護		
	入院治療を受ける高齢者の看護		
8	IV. エンドオブライフケア	講義	教科書・資料
	V. 生活・療養の場における看護		
	VI. 高齢者のリスクマネジメント		
9～15	VII. 看護過程の展開 事例の展開	講義・演習	教科書・資料
16	テスト	筆記試験	
受講上の注意 生活機能や健康の段階、高齢者に特徴的な疾病や症状・治療処置別の看護の考え方と展開の方法を学びましょう。			評価方法 筆記試験 100点
使用するテキスト 系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院			
参考文献 生活機能から見た老年看護過程(医学書院)			

科目名 老年看護学方法論Ⅱ	2年次 1単位 30時間	講義担当者名	
事前学習内容 教科書の指定されたページと内容を確認する。			
科目全体のねらい・授業目標 高齢者に特徴的な系統別疾病や主要症状・治療処置を理解することができる。			
ディプロマ・ポリシー(卒業時の目標)との関連 高齢者に特徴的な疾患や治療を理解することで、対象者を総合的に理解する。また、健康逸脱からの回復を促す看護を理解する。			
授業の流れ(全体のスケジュール回数、学習内容、方法、学習成果、使用テキスト、準備物品など)			
回	内 容	方 法	備 考
1	I. 身体疾患のある高齢者の看護 1. 脳卒中・脳血管疾患後遺症	講義	教科書・資料
2	2. 呼吸器疾患(慢性閉塞性肺疾患・肺炎)	講義	教科書・資料
3	3. パーキンソン病、パーキンソン症候群	講義	教科書・資料
4	4. 感染症(インフルエンザ等)	講義	教科書・資料
5	5. 運動器疾患(骨粗鬆症・骨折) (圧迫骨折、変形性関節症、大腿骨近位部骨折)	講義	教科書・資料
6	6. その他の疾患や症候(皮膚掻痒症・心不全・ 糖尿病・がん・前立腺肥大症・白内障等)	講義	教科書・資料
7	II. 認知機能障害のある高齢者の看護 1. うつ 2. せん妄 3. 認知症	講義	教科書・資料
8	テスト	筆記試験	
受講上の注意 高齢者の特徴を踏まえ、疾患や治療・処置を理解し看護につなげましょう。		評価方法 筆記試験 100点	
使用するテキスト 系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学・周術期看護論 医学書院			
参考文献			

科目名	1年次 1単位 30時間	講義担当者名	
小児看護学概論			
事前学習内容 周囲の子供達に関心を持ち、子供関連の記事にも注意を払ってください。 事前に教科書を熟読するのが望ましい。			
科目全体のねらい・授業目標 ・人体を構成する各要素がどのような活動をしているのか説明できる。 ・身体の各解剖とその働きを説明できる。 ・子どもを取り巻く環境について学び、その影響について述べるができる。 ・成長・発達を理解し、小児各期の特徴を学び、小児看護の役割を理解し、説明することができる。 ・疾患など様々な状況にいる子供とその家族について学び、そのケアについて説明できる。			
ディプロマ・ポリシー(卒業時の目標)との関連 ・各成長発達段階を学び小児を身体的、精神的、社会的に捉えることができる。 ・小児やその家族が置かれている環境を学び、どのような援助が必要なのか考えることができる。 ・子どもが病気になることで変化する家族機能について理解し、家族を含めた支援をすることができる。			
授業の流れ(全体のスケジュール回数、学習内容、方法、学習成果、使用テキスト、準備物品など)			
回	内 容	方 法	備 考
1	小児看護の特徴と理念	講義	資料
2	子どもの人権と子供を取り巻く社会	講義	資料
3	子どもの成長・発達	講義	資料
4	子どもの栄養	講義	資料
5	新生児期にある子どもの成長・発達の理解	講義	資料
6	乳児期にある子どもの成長・発達の理解	講義	資料
7	幼児期にある子どもの成長・発達の理解	講義	資料
8	学童期・思春期にある子どもの成長・発達の理解	講義	資料
9	子どものアセスメント	講義	資料
10			資料
11	子どもと家族	講義	資料
12	健康障害を持つ子どもと家族の看護	講義	資料
13	子どもの状況(環境)に特徴づけられる看護	講義	資料
14	障害のある子どもと家族の看護	講義	資料
15	子どもの虐待と看護	講義	資料
16	テスト	筆記試験	
受講上の注意 授業に集中して臨むと共に復習が必須である。			評価方法 筆記試験 100点
使用するテキスト 系統看護学講座 専門分野 小児看護学概論・小児臨床看護総論 医学書院			

科目名	2年次 1単位 30時間	講義担当者名	
小児看護学方法論 I			
事前学習内容 周囲の子ども達に関心を持ち、子ども関連の記事にも注意を払ってください。事前に教科書を熟読するのが望ましい。			
科目全体のねらい・授業目標 ・人体を構成する各要素がどのような活動をしているのか説明できる。 ・身体の各解剖とその働きを説明できる。 ・小児疾患や経過・症状・治療・検査について学び、必要な援助とその方法がわかる。			
ディプロマ・ポリシー(卒業時の目標)との関連 ・各部位の代表的な疾患の病態生理・病因・症状・検査・治療法を理解できる。 ・看護を行うための基礎的な知識を身に付けることができる。 ・子どもが病気になることで変化する家族機能について理解し、家族を含めた支援をすることができる。			
授業の流れ(全体のスケジュール回数、学習内容、方法、学習成果、使用テキスト、準備物品など)			
回	内 容	方 法	備 考
1	染色体異常・体内環境により発症する先天異常について	講義	資料
2	新生児の疾患について	講義	資料
3	代謝性疾患・内分泌疾患	講義	資料
4	免疫疾患・アレルギー性疾患	講義	資料
5	感染症	講義	資料
6	呼吸器疾患・循環器疾患	講義	資料
7	消化器疾患	講義	資料
8	血液・造血器疾患・悪性新生物	講義	資料
9	腎・泌尿器および生殖器疾患	講義	資料
10	神経疾患	講義	資料
11	運動器疾患	講義	資料
12	皮膚疾患	講義	資料
13	眼疾患・耳鼻咽喉疾患	講義	資料
14	精神疾患	講義	資料
15	事故・外傷	講義	資料
16	テスト	筆記試験	
受講上の注意 授業に集中して臨むと共に復習が必須である。			評価方法 筆記試験 100点
使用するテキスト 系統看護学講座 専門分野 小児臨床看護各論 医学書院			
参考文献			

科目名 小児看護学方法論Ⅱ	2年次 1単位 30時間	講義担当者名	
事前学習内容 周囲の子供達に関心を持ち、子供関連の記事にも注意を払ってください。事前に教科書を熟読するのが望ましい。			
科目全体のねらい・授業目標 ・人体を構成する各要素がどのような活動をしているのか説明できる。 ・身体の各解剖とその働きを説明できる。 ・疾病の経過について理解し、疾患別の治療・処置・検査での看護師の役割について説明できる。 ・月年齢別、発達段階別の子供の特徴を理解し、症状別の治療・看護を説明できる。 ・疾患など様々な状況にいる子供とその家族について学び、そのケアについて説明できる。			
ディプロマ・ポリシー(卒業時の目標)との関連 ・各成長発達段階を学び小児を身体的、精神的、社会的に捉えることができる。 ・小児やその家族が置かれている環境を学び、どのような援助が必要なのか考えることができる。 ・子どもが病気になることで変化する家族機能について理解し、家族を含めた支援をすることができる。			
授業の流れ(全体のスケジュール回数、学習内容、方法、学習成果、使用テキスト、準備物品など)			
回	内 容	方 法	備 考
1	染色体異常・体内環境により発症する先天異常と看護	講義	
2	新生児の看護	講義	
3	代謝性疾患・内分泌疾患と看護	講義	
4	免疫疾患・アレルギー性疾患と看護	講義	
5	感染症と看護	講義	
6	呼吸器疾患・循環器疾患と看護	講義	
7	消化器疾患と看護	講義	
8	血液・造血器疾患・悪性新生物と看護	講義	
9	腎・泌尿器および生殖器疾患と看護	講義	資料
10	神経疾患と看護	講義	資料
11	運動器疾患と看護	講義	資料
12	皮膚疾患と看護	講義	資料
13	眼疾患・耳鼻咽喉疾患と看護	講義	資料
14	精神疾患と看護	講義	資料
15	事故・外傷と看護	講義	資料
16	テスト	筆記試験	
受講上の注意 授業に集中して臨むと共に復習が必須である。		評価方法 筆記試験	100点
使用するテキスト 系統看護学講座 専門分野 小児臨床看護各論 医学書院			

科目名	1年次 1単位 15時間	講義担当者名	
母性看護学概論			
事前学習内容 人間・環境・健康・看護とは何か復習しておく			
科目全体のねらい・授業目標 ・母性とは何かについて幅広く捉え、母性各期の対象の特徴と看護を理解する。 ・疾病の経過について理解し、疾患別の治療・処置・検査での看護師の役割について説明できる。 ・月年齢別、発達段階別の子供の特徴を理解し、症状別の治療・看護を説明できる。 ・疾患など様々な状況にいる子供とその家族について学び、そのケアについて説明できる。			
ディプロマ・ポリシー(卒業時の目標)との関連 ・対象の生理的変化と、正常からの逸脱、特徴的な症状によって、セルフケアや治療を支援することで対象を総合的に理解する。 ・健康逸脱からの回復を促す看護を理解する。			
授業の流れ(全体のスケジュール回数、学習内容、方法、学習成果、使用テキスト、準備物品など)			
回	内 容	方 法	備 考
1	妊娠期:妊婦と胎児のアセスメント、妊婦健康診査、他	講義	教科書・資料
2	妊娠期の異常と看護	講義	教科書・資料
3	分娩期:分娩期の経過と看護、産婦の心理・社会的特性	講義	教科書・資料
4	女性のライフサイクル各期の健康問題 性のライフステージ各期における看護	女 講義	教科書・資料
5	リプロダクティブヘルス・ライツとは 母性看護と倫理 母性看護における安全・事故防止	講義	教科書・資料
6	母性看護の歴史 母子保健統計からみた動向 母性看護にかかわる法律	講義	教科書・資料
7	リプロダクティブヘルスケア 母性看護と倫理 母性看護における安全・事故防止	講義	教科書・資料
8	テスト	筆記試験	教科書・資料
受講上の注意 授業に集中して臨むと共に復習が必須である。		評価方法 筆記試験 100点	
使用するテキスト 系統看護学講座 専門分野 母性看護学概論(母性看護学1) 医学書院			
参考文献			

科目名 母性看護学方法論 I	2年次 1単位 30時間	講義担当者名	
事前学習内容 教科書の指定されたページと内容を確認する			
科目全体のねらい・授業目標 ・母性とは何かについて幅広く捉え、母性各期の対象の特徴と看護を理解する。 ・母性の概念と母性看護の意義及び特性について理解する。 ・母性看護の対応を取り巻く社会の変遷と現状について理解する。 ・現代社会のライフサイクルの変化について理解する。			
ディプロマ・ポリシー(卒業時の目標)との関連 ・自らの母性(男性は母性にかかわる自分)を認識し、生命の尊重・人間性の尊重について ・現代社会のライフサイクルの変化について理解する。			
授業の流れ(全体のスケジュール回数、学習内容、方法、学習成果、使用テキスト、準備物品など)			
回	内 容	方 法	備 考
1	妊娠期:妊婦と胎児のアセスメント、妊婦の健康管理と保健指導	講義	教科書・資料
2	妊娠期の異常と看護	講義	教科書・資料
3	分娩期:分娩期の経過と看護、産婦の心理・社会的特性	講義	教科書・資料
4	分娩期:補助動作・呼吸法	講義・演習	教科書・資料
5	分娩の異常と看護	講義	教科書・資料
6	産褥期:子宮底測定と輪状マッサージ	講義・演習	教科書・資料
7	産褥期:褥婦の健康と生活行動のアセスメント他	講義	教科書・資料
8	母乳栄養の確立や授乳育児行動の獲得に向けた看護	講義	教科書・資料
9	出産育児行動や母乳育児行動の自立に向けた支援	講義	教科書・資料
10	産後の異常と看護	講義	教科書・資料
11	新生児期:新生児のアセスメント、新生児の出産直後の看護	講義	教科書・資料
12	新生児期:出生から退院までの看護	講義	教科書・資料
13	新生児期沐浴と臍処置	講義・演習	教科書・資料
14	着衣とおむつ交換、室内環境・寝床内環境	講義・演習	教科書・資料
15	産後の健康診査(褥婦・新生児)	講義・演習	教科書・資料
16	テスト	筆記試験	
受講上の注意 授業に集中して臨むと共に復習が必須である。			評価方法 筆記試験 100点
使用するテキスト 系統看護学講座 専門分野 母性看護学各論(母性看護学2) 医学書院			
参考文献			

科目名	2年次	講義担当者名	
母性看護学方法論Ⅱ	1単位 30時間		
事前学習内容 教科書の指定されたページと内容を確認する			
科目全体のねらい・授業目標 ・母性とは何かについて幅広く捉え、母性各期の対象の特徴と看護を理解する。 ・疾病の経過について理解し、疾患別の治療・処置・検査での看護師の役割について説明できる。 ・月年齢別、発達段階別の子供の特徴を理解し、症状別の治療・看護を説明できる。 ・疾患など様々な状況にいる子供とその家族について学び、そのケアについて説明できる。			
ディプロマ・ポリシー(卒業時の目標)との関連 ・対象の生理的変化と、正常からの逸脱、特徴的な症状によって、セルフケアや治療を支援することで対 ・健康逸脱からの回復を促す看護を理解する。			
授業の流れ(全体のスケジュール回数、学習内容、方法、学習成果、使用テキスト、準備物品など)			
回	内 容	方 法	備 考
1	<妊娠期>解剖生理(形態・機能)、性分化、妊娠の成立、不妊治療(検査・ART)	講義	教科書・資料
2	妊娠中の身体的特性、妊娠の生理、胎児の発育とその生理、母体の生理的変化	講義	教科書・資料
3	妊婦と胎児のアセスメント、妊娠とその診断、妊娠中に行う検査とその目的、胎児の発育と健康状態の診断	講義	教科書・資料
4	周産期医療システム、母体搬送、新生児搬送、チーム医療、周産期ネットワーク4. ハイリスク妊娠・妊娠期の感染症	講義	教科書・資料
5	妊娠の異常、妊娠期の疾患、多胎妊娠、子宮外妊娠、妊娠持続期間の異常	講義	教科書・資料
6	遺伝相談、着床前診断・出生前診断、遺伝相談とは、胎児治療と遺伝子治療	講義	教科書・資料
7	<分娩期>分娩の要素、分娩の経過、産婦と胎児の健康状態のアセスメント	講義	教科書・資料
8	分娩の経過、分娩の進行と産婦の身体的変化、産痛(除痛)、産婦と胎児の健康状態のアセスメント	講義	教科書・資料
9	分娩の異常、産道の異常、娩出力の異常、胎児の異常による分娩障害、胎児附属物の異常	講義	教科書・資料
10	分娩の異常、胎児機能不全、分娩時の損傷、分娩第3期～4期の異常	講義	教科書・資料
11	分娩の異常、分娩時異常出血、産科処置と産科手術	講義	教科書・資料
12	<産褥期>産褥期の身体的変化・心理的变化、産褥の異常、異常分娩/帝王切開術後の異常、子宮復古不全、産褥熱/乳腺炎、血栓塞栓症、産後の精神障害	講義	教科書・資料
13	<新生児期>新生児の特徴と生理的変化	講義	教科書・資料
14, 15	新生児の健康と発育のアセスメント、新生児の異常、新生児仮死、RDS、MAS、低出生体重児/低血糖症、高ビリルビン血症、分娩外傷	講義	教科書・資料
16	テスト	筆記試験	
受講上の注意 授業に集中して臨むと共に復習が必須である。		評価方法	筆記試験 100点
使用するテキスト 系統看護学講座 専門分野 母性看護学各論(母性看護学2)		医学書院	
参考文献			